

独立行政法人福祉医療機構長寿社会福祉基金（一般分）報告書

介護家族への教育支援プログラムの開発事業

平成19年3月

社会福祉法人東北福祉会

認知症介護研究・研修仙台センター

介護家族の教育支援プログラム実施推進委員会

加藤 伸 司	認知症介護研究・研修仙台センター	東北福祉大学
浅野 弘 毅	認知症介護研究・研修仙台センター	東北福祉大学
阿部 哲 也	認知症介護研究・研修仙台センター	東北福祉大学
矢吹 知 之	認知症介護研究・研修仙台センター	東北福祉大学
吉川 悠 貴	認知症介護研究・研修仙台センター	
長嶋 紀 一	日本大学	
大久保幸積	社会福祉法人幸清会	特別養護老人ホーム 幸豊ハイツ
守屋 秀 一	社会福祉法人幸清会	デイサービスセンター幸豊ハイツ
行徳 秀 和	社会福祉法人幸清会	特別養護老人ホーム 幸豊ハイツ
小野寺義彦	社会福祉法人東北福祉会	特別養護老人ホームせんだんの里
千脇 隆 志	社会福祉法人東北福祉会	特別養護老人ホームせんだんの里
土田 良 平	社会福祉法人正吉福祉会	特別養護老人ホーム府中よつや苑
城地まさみ	社会福祉法人正吉福祉会	特別養護老人ホーム府中よつや苑
杉村 和 子	社会福祉法人聖徳会	
三木 一 雄	社会福祉法人聖徳会	
山田 裕 子	医療法人社団常仁会	福山市地域包括支援センター水呑
草壁 利 江	医療法人社団常仁会	介護老人保健施設サンスクエア沼南
一 原 浩	社会福祉法人同人会	高齢者総合福祉施設緑の園
太田 秀 男	社会福祉法人同人会	高齢者総合福祉施設緑の園

教育支援プログラム 事業普及推進室

渡部久美子	認知症介護研究・研修仙台センター	臨時職員
千田 恵 美	認知症介護研究・研修仙台センター	臨時職員

目 次

あいさつ	1
はじめに	2
1 章 事業の概要	3
1. 本事業の目的	
2. 事業評価の視点	
3. 期待される効果	
2 章 モデル事業の実施と評価方法	5
1. モデル事業実施施設と対象者	
1) モデル事業実施事業所	
2) 実施・運営テキスト実用性評価の評価者	
3) 教育支援プログラムの効果測定の対象者	
2. 調査票の構成	
1) 教育支援プログラム参加者の評価	
2) テキスト実用性評価	
3) プロセス評価（ヒアリング調査と事業評価）	
4) 教育支援プログラムの効果測定	
3. 実施の手続き	
1) モデル事業説明会の実施	
2) モデル事業の実施と支援	
3 章 参加者の評価	9
1. 評価目的	
2. 方法	
3. 結果	
1) 対象者の属性	
2) 講座の評価	
3) 参加者群による比較	
4 章 テキストの実用性評価	15
1. 評価目的	
2. 方法	
3. 結果	

5章 プロセス評価（ヒアリング調査と事業評価）	18
1. 評価目的	
2. 方法	
3. 結果	
1) 事業評価	
2) ヒアリング調査	
6章 プログラムの効果測定	20
1. 評価目的	
2. 方法	
3. 結果	
1) 家族の属性	
2) 職員とのコミュニケーション意識と態度の変容	
3) 家族間のコミュニケーション意識と態度の変容	
4) 介護負担尺度得点の変容	
5) 介護の肯定的評価得点の変容	
6) 認知症介護の自律性尺度得点の変容	
7) 施設職員の属性	
8) 家族とのコミュニケーションの意識と態度の変容	
9) 職員間のコミュニケーション頻度の変容	
10) 職員の職場のストレスの変容	
11) 認知症介護の自律性尺度得点の変容	
12) 結果のまとめ	
7章 事業の成果	39
謝辞	40
資料編	
資料1 モデル事業実施施設一覧	
資料2 モデル事業実施説明会の開催と参加者	
資料3 モデル事業実施説明会の資料（パワーポイント）	
資料4 モデル事業支援広報誌「ケアケア通信」	
資料5 参加者の講座評価票（毎回のアンケート）	
資料6 テキスト評価票	
資料7 モデル事業実施テーマ一覧	
資料8 モデル事業実施事業所事業評価票	
資料9 ヒアリング調査票	
資料10 ヒアリング調査の日程と担当者	
資料11 効果測定事前調査（介護家族・施設職員）	
資料12 効果測定事後調査（介護家族・施設職員）	

あいさつ

認知症介護研究・研修仙台センターでは、独立行政法人福祉医療機構の「長寿社会福祉基金（一般分）」の助成を受けて、２００５年度より「介護家族への教育支援プログラムの開発事業」をすすめてきました。

この事業は、全国の多くの施設、事業所で働く施設職員の皆様やサービスを利用するご家族の皆様の支援やご協力を得ながら展開しております。

２００５年度は、全国６事業所でモデル事業を実施し、家族を支援する教育支援プログラムの内容やテキストのあり方を検討しました。

今年度は、４７都道府県全てを網羅し全国５７事業所でモデル事業を開催し、延べ６，０００名以上の家族、施設職員の皆様の参加によって、その効果と有効性を見出すことができました。

本報告書は、今年度実施された事業内容と効果測定を行った結果をまとめた内容となっております。

事業を展開するにあたり、独立行政法人福祉医療機構をはじめとして、多くの事業所、関係機関及び多忙な業務にも関わらずモデル事業の運営をしていただいた施設職員の皆様とご参加頂いた家族の皆様に対しまして、あらためて心から感謝申し上げます。

来年度は、本報告書とあわせて教育支援プログラム実施テキストを活用し地域包括支援センターを含め広く一般に普及事業を展開する予定です。皆様のなお一層のご理解、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

認知症介護研究・研修仙台センター
センター長 加藤 伸 司

はじめに

２００５年に内閣府が行った「高齢者の住宅と生活環境に関する意識調査」において、仮に介護が必要になった場合７割の高齢者が在宅生活を希望している。また、「２０１５年の高齢者介護」においては、在宅生活を希望する人が多いにもかかわらず、介護が必要となったときに、その希望に応じて在宅生活を続けることが困難な現状が指摘されている。要介護状態になった高齢者が、住みなれた環境の中で、最後まで尊厳を保持してその人らしく生活を営むことを可能としていくためには、在宅向けの介護サービスの充実を図ることに加えて、介護に対する専門的知識・技術の提供等を支援し、家族の介護力を高めていくこと、またその結果として在宅介護を支援するためのサービスを効果的・効率的に利用できることが重要である。

在宅サービスの質の向上のためには、在宅介護者と最も接点の多いサービス提供側の職員の質向上と、各々が所属する事業所の家族支援体制や人材育成の体制の整備が望まれる。

これらのことから、本事業では、介護家族とサービス提供事業所の介護職員が一緒になって介護教室に参加する相互参加型の教育支援プログラム試案を作成し実施することを目指した。事業実施によって、サービス提供者とサービスを受ける者が、共通の視点を持つことができるようになり、より介護家族のニーズに近い形の知識・技術の提供を支援することができるようになることを期待している。また、作成した、「交流講座実施テキスト」ならびに「映像教材ＤＶＤ」を参考に、全国の在宅サービス関連事業所等が普及し活用されることによって、認知症高齢者を在宅で介護する家族への支援の充実が図られることを目指して行われた事業である。

なお、今年度の事業は、２００５年～２００７年までの３年計画で実施している内の２年目である。

1 章 事業の概要

1. 事業の目的

要介護認定者のほぼ半数に認知症の影響が認められ、在宅要介護認定者 210 万人のうち 73 万人に認知症の影響が認められている現状において、その介護家族をいかに支えていくかは大きな課題である。在宅の介護家族を支えていくためには、介護負担の軽減だけではなく、介護に対する専門的知識・技術の提供等を支援し、家族の介護力を高めていくこと、また在宅介護を支援するためのサービスを効果的に利用できることも重要である。

本事業は、認知症高齢者を在宅で介護する家族に対する専門的知識・技術の向上をはかるために、在宅の介護家族とサービス提供事業所の介護職員相互参加型の介護講座を開催し、その結果をもとにより効果的な介護者の教育支援プログラムを作成し、広く全国に普及させていくことが目的である。

2. 事業評価の視点

2005 年度は、全国 6 施設に実施を依頼し、参加者の評価と、家族の介護負担感、施設職員のストレス評価、自律性尺度得点から有用性ならびに有効性の検証を行った。結果、教育支援プログラムは、6 施設で延べ 36 タイトルを実施し、各回の参加者評価をもとに、検討委員会において実施マニュアル、テキスト全 10 巻を作成した。効果測定については、介護家族の介護負担感、自律性得点の教育支援プログラム参加前後の比較では有意な差はみられなかったが、参加回数が 2 回以上参加者と 1 回参加者の自律性得点の比較では、2 回以上参加者の方が有意に向上することが明らかになったことから、継続参加による自律性向上の効果が認められた。施設職員のストレス得点は、事前事後による有意な差は認められなかったが、2 回以上参加者は 1 回参加者よりも有意にストレスが低下していることが明らかになった。また、施設職員の自律性得点は、事前事後、参加回数による有意な差は認められなかったが、対照群との比較によって有意な差が認められたことから、参加することによる自律性への影響が示唆された。

今年度は、どのような地域や事業所においても実施可能な教育支援プログラムを作成することを目的とし前年度の結果をふまえて作成された実施・運営テキストの実用性の検証と、教育支援プログラムの効果測定指標を作成しモデル事業を行った。なお、モデル事業実施施設は、全国 56 事業所であった。

本事業における評価の視点は、テキストの実用性の検証と、プログラムの

実施プロセス評価、そして効果測定であった。実施・運営テキストの実用性は、全国56事業所に実際に教育支援プログラムとなる、家族と施設職員の相互参加型交流講座を年間3回以上テキストを使用した講座の実施を依頼し、実用性の評価を得た。教育支援プログラムのプロセス評価は、全ての講座について、参加者による評価と参加者数を評価とした。本プログラムの効果測定については、介護負担感、介護肯定感、認知症介護の自律性の参加前後による変容を比較した。

3. 期待される効果

これまで、介護教室はさまざまな事業所等で行われてきたが、その方法論は確立されていなかった。またこれらの事業所は、サービス事業者等が一方的に行うものが多く、その成果が実際の在宅介護の場面にどの程度役立ち、介護家族の負担がどのように軽減されてきたかは明らかにされてこなかった。

本事業では、介護家族とサービス提供事業所の介護職員が一緒になって介護教室に参加する相互参加型の教育支援プログラム試案を作成し実施する。そのことにより、サービス提供者とサービスを受ける者が、共通の視点を持つことができるようになり、より介護家族のニーズに近い形の知識・技術の提供を支援することができるようになる。さらに、介護教室のプログラムを、簡便に実施できるようにパッケージ化し、これを全国の在宅サービス関連事業所等に普及させることによって、認知症高齢者を在宅で介護する家族への支援の充実がはかれる。

2 章 モデル事業の実施と評価方法

1. モデル事業実施施設と対象者

1) モデル事業実施事業所

本事業のモデル事業実施事業所は、2005年度に教育支援プログラム開発に携わった、6事業所をブロック推進施設とした。

表2-1 ブロック推進施設一覧

担当ブロック	施設名
北海道・中部	社会福祉法人幸清会 特別養護老人ホーム「幸豊ハイツ」
東北	社会福祉法人東北福祉会 特別養護老人ホーム「せんだんの里」
関東	社会福祉法人正吉福祉会 府中市立特別養護老人ホーム「よつや苑」
近畿	社会福祉法人聖徳会 特別養護老人ホーム「大阪老人ホーム」
中国・四国	医療法人社団常仁会 介護老人保健施設「サンスクエア沼南」
九州	社会福祉法人同心会 特別養護老人ホーム「緑の園」

今年度の効果検証ならびに昨年度作成したテキスト実用性評価については、ブロック推進施設から推薦された、全国47都道府県から56施設をモデル事業実施事業所として選定した（資料1）。

延べ参加者は以下の通りである（平成19年3月31日現在）。

表2-2 モデル事業の延べ参加者（平成19年3月31日現在）

介護家族	施設職員	運営スタッフ	講座実施回数
3,188名	2,885名	1,399名	244回

2) 実施・運営テキスト実用性評価の評価者

実施・運営テキストの実用性評価は、56施設で行なった講座の講師担当者が、テキストをどのように使用し、活用したかについて評価を質問紙に記入されたものをまとめた。56施設中50施設から回答を得、合計244講座分であった（平成19年3月31日現在）。

3) 教育支援プログラムの効果測定の対象者

介護家族と施設職員の相互参加型交流講座に参加することによる効果測定の対象は、参加する家族と施設職員それぞれに実施し、参加前・後の比較を行なった。対象となった介護家族、施設職員数は以下のとおりである。

表2-3 効果測定の対象者

	事前	事後	延べ人数
介護家族	1 3 1 7	6 5 3	1 9 7 1
施設職員	1 2 6 5	6 4 8	1 9 1 3

2. 調査票の構成

1) 教育支援プログラム参加者の評価

モデル事業実施事業所に依頼し、実施した講座参加者すべてに以下の項目についての評価を4段階で求めた。

- ① 満足度
- ② 理解度
- ③ 関心度
- ④ 継続参加希望
- ⑤ 今後の活用度
- ⑥ ディスカッション参加の自己評価
- ⑦ 意見、要望（自由記述）

2) テキスト実用性評価

モデル事業実施事業所で開催された教育支援プログラムの講師担当者にテキストを使用して講座を実施し以下の項目について回答を得た。

- ① 講義担当講師属性
- ② 使用したテキスト名
- ③ テキストの使いやすさ
- ④ テキストの活用度
- ⑤ 修正箇所と修正点（記述式）
- ⑥ その他（自由記述）

3) プロセス評価（ヒアリング調査と事業評価）

教育支援プログラムの実際の運営方法を観察ならびに聞き取りをおこなうことによって、運用上の課題や問題点を明らかにすることを目的に下記の項目で実施した。すべて調査者の記述である。

- ① 参加者数
- ② 全体の雰囲気
- ③ 内容の特徴と工夫点
- ④ 講義の流れと運営スタッフの動き
- ⑤ グループワークの内容と展開
- ⑥ 全体の課題

4) 教育支援プログラムの効果測定

教育支援プログラムの効果を測定することを目的に、以下の項目について測定した。介護家族、施設職員いずれも初回参加時と最終参加時に回答を求め事前事後の比較を行なった。

A. 介護家族

- ① 属性
(本人の年齢、性別、要介護者の年齢、性別、要介護度、利用サービス、サービスの満足度、認知症レベル、介護年数)
- ② コミュニケーション
(家族間のコミュニケーション頻度、家族間のコミュニケーションへの希望、施設職員とのコミュニケーション頻度、施設職員とのコミュニケーションへの希望、施設職員とのコミュニケーション内容)
- ③ 介護負担感
Zarit 介護負担尺度日本語版（短縮版）[J-ZBI 8]（荒井 2002）
- ④ 認知症介護の自律性評価
看護婦の自律性尺度（47項目）（菊池ら 1997）の項目を参考に認知症介護の自立性尺度（19項目）を作成した。
特に認知症の介護の場面に着目し、実践場面においてどのように行動するかを聞いた内容である。得点が高いほど、認知症介護の場面で、自身で考え行動できるかの実践力を示す内容となっている。
「環境調整実践能力」、「状況対応能力」、「自律生活支援能力」の3つの下位尺度で構成され、信頼性係数はそれぞれ確保されている。
- ⑤ 介護肯定感

介護肯定評価尺度（櫻井 1999）から 12 項目を使用した。

B. 施設職員

① 属性

（年齢、性別、実務経験、職種、所持資格）

② コミュニケーション

（家族とのコミュニケーション頻度、家族とのコミュニケーション内容、希望、施設職員間のコミュニケーション頻度、施設職員間のコミュニケーション内容）

③ 介護負担感

老人施設スタッフのストレッサー評価尺度（矢富ら 1990）を参考にした。

④ 認知症介護の自律性評価

介護家族と同様の尺度を使用した。

3. 実施の手続き

1) モデル事業説明会の実施

56 事業所へのモデル事業の円滑な実施に向けて全国 7 会場で講座の運営方法について説明会を開催した。運営は、前年度実施しているブロック推進施設 6 事業所の推進委員会委員を講師として、具体的な運営の例、実施のポイントなどを質疑応答を交えて行なった（資料 2, 3）。

2) モデル事業の実施と支援

モデル事業の実施は、以下の条件で各事業所に依頼した。

- ① 介護家族と施設職員が相互参加する
- ② 検証のためにテキストを使用すること
- ③ 認知症に関する講座をプログラム内に 1 回以上含むこと
- ④ プログラムは 6 回を目標として 3 回以上実施
- ⑤ 参加者への事前事後調査、テキスト評価を実施

支援体制は、「モデル事業推進室（通称：ケアケア推進室）」を認知症介護研究・研修仙台センター研究事業室内に設置し、運営に関わる助言、指導を電話ならびに電子メールで行った。業務内容は以下の通りである。

- ① 講座の運営への電話での指導、助言
- ② 各種アンケートの配布、記入、回収方法の助言
- ③ 広報に係わるポスター、チラシ作成と発送回収に係わる作業
- ④ 支援広報誌「ケアケア通信」の発送作業（資料 4）
- ⑤ その他、事業運営に必要な作業

3 章 参加者の評価

1. 評価目的

本事業は、介護家族の在宅介護に必要な知識や技術を学ぶことである。その際に、伝達だけではなく、グループワークを用いた演習を実施することによって、個別的な課題解決や実践に活用できる学びの場を提供することが目的である。また、施設職員の相互参加型のプログラムを展開することによって、施設職員自身の実務における、アセスメントやケアに関連づけることが目的である。したがって、評価の目的は、プログラムに参加した参加者の主観的な感想を聞き参加者の個別なニーズとの整合性を検証することである。

2. 方法

全国 56 カ所で行われたモデル事業実施事業所に、同様の調査票を配布し、全ての講座で参加者全員に配布した（資料 5）。記入は、講座修了後に無記名で依頼しその場で回収した。調査期間は、モデル事業を開始した平成 18 年 9 月～平成 19 年 3 月までであった。

3. 結果

1) 対象者の属性

調査票は、56 施設から合計 5,210 票回収した。

参加者の属性は、介護家族が 1,628 名（34%）、施設職員 2,050 名（42%）、地域住民 745 名（15%）、その他 415 名（9%）であった（図 3-1）。

性別は、女性 3,851 名（78%）、男性 1,110 名（22%）で女性の方が多い（図 3-2）。

年代では、60 代以上が最も多く、1,942 名（39%）、次いで 50 代 1,220 名（24%）、30 代 653 名（13%）、20 代 627 名（12%）、40 代 591 名（12%）、の順であった（図 3-3）。

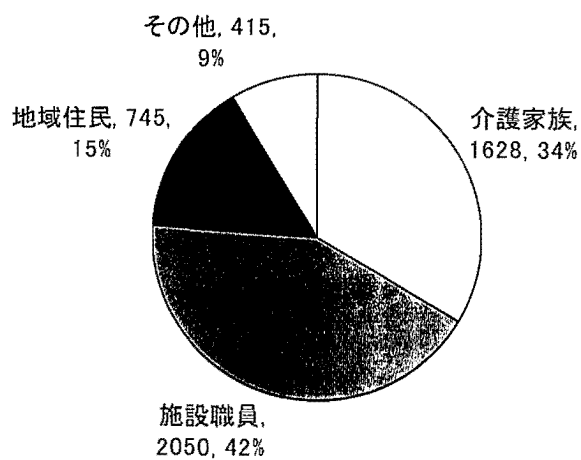


図3-1 調査対象者の属性(n=4838)

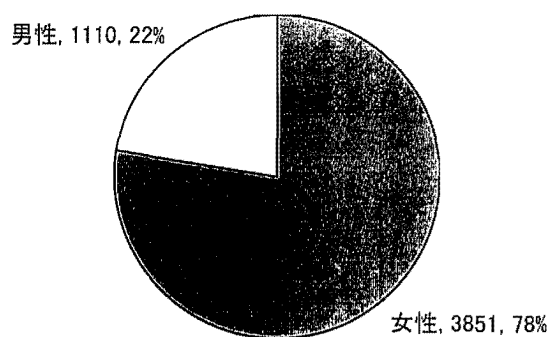


図3-2 調査対象者の性別(n=4961)

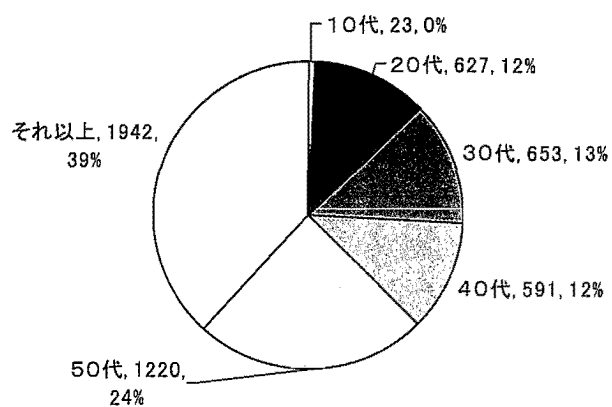


図3-3 調査対象者の年代(n=5056)

2) 講座の評価

各項目について4段階で評価を求めた。結果、いずれの項目も、9割以上が高い評価を得た。最も評価が高かったのは、活用度であった。一方、ディスカッションの参加度については、他の項目よりも低いことが明らかになった。

3) 参加者群による比較

評価対象者を、介護家族と、施設職員で比較を行った(図3-5～11)。すべての項目について、介護家族の方が評価が高いことが明らかになった。

特に顕著な差は、期待度、ディスカッション参加度、資料の充実度、全体満足度であった。講座が相互参加であるために、講義内容が易しくなることによるものであると考えられる。また、ディスカッションの参加については、どのように施設職員が参加するかが明確に指示される必要がある。

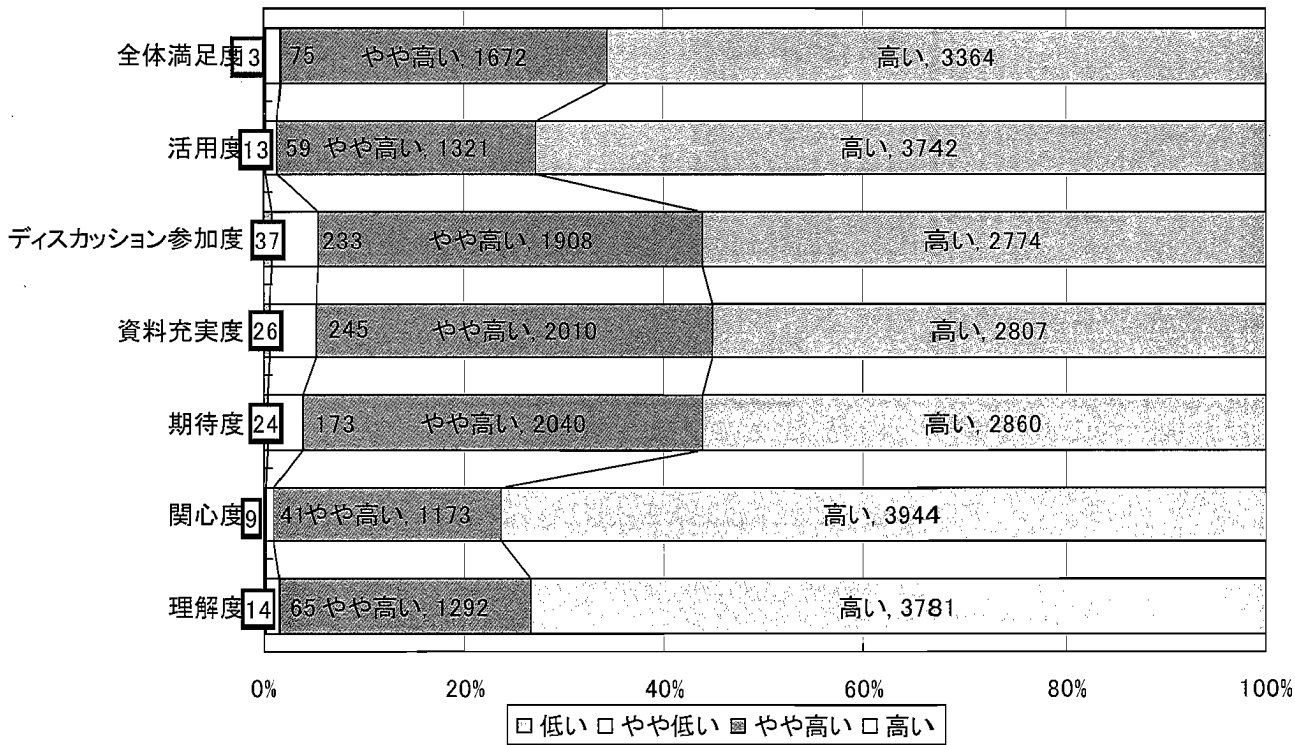


図3-4 講座の評価

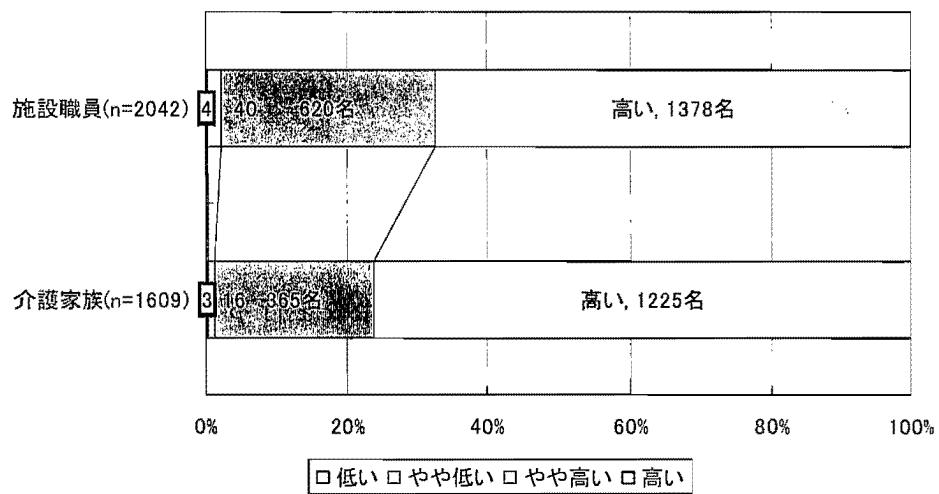


図3-5 講座の理解度

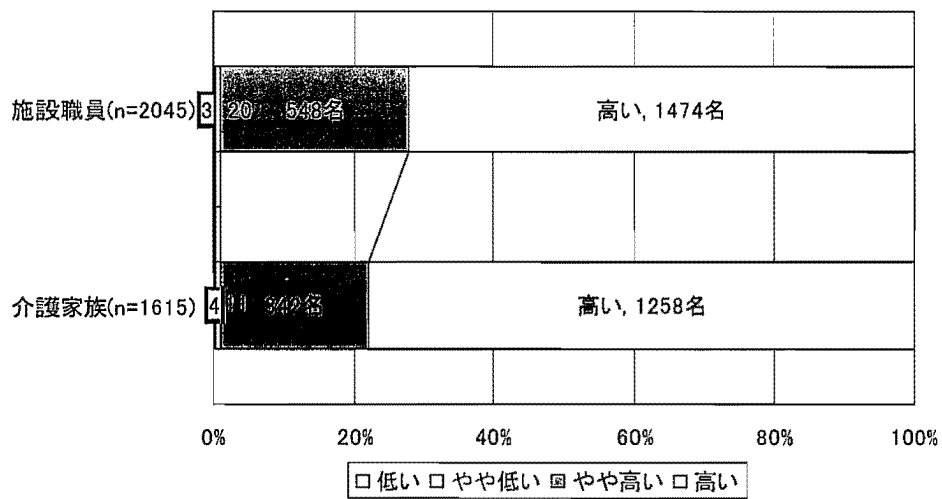


図3-6 関心度

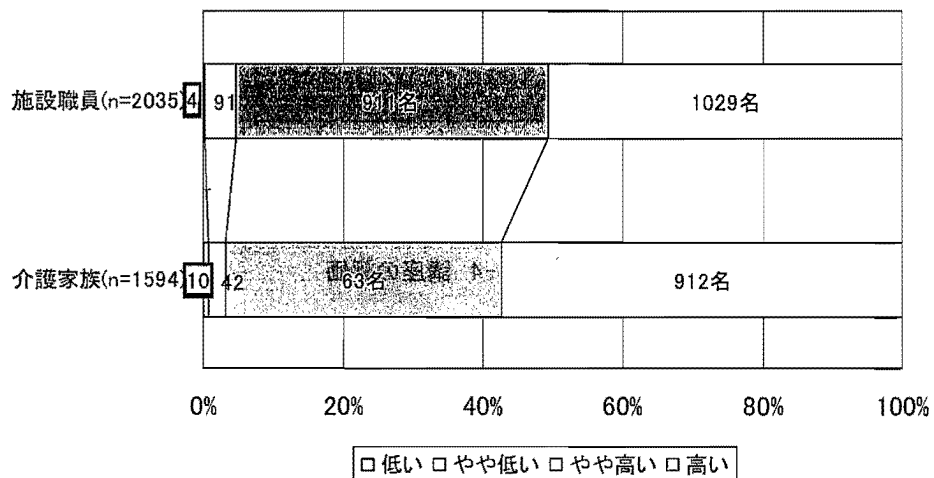


図3-7 期待度

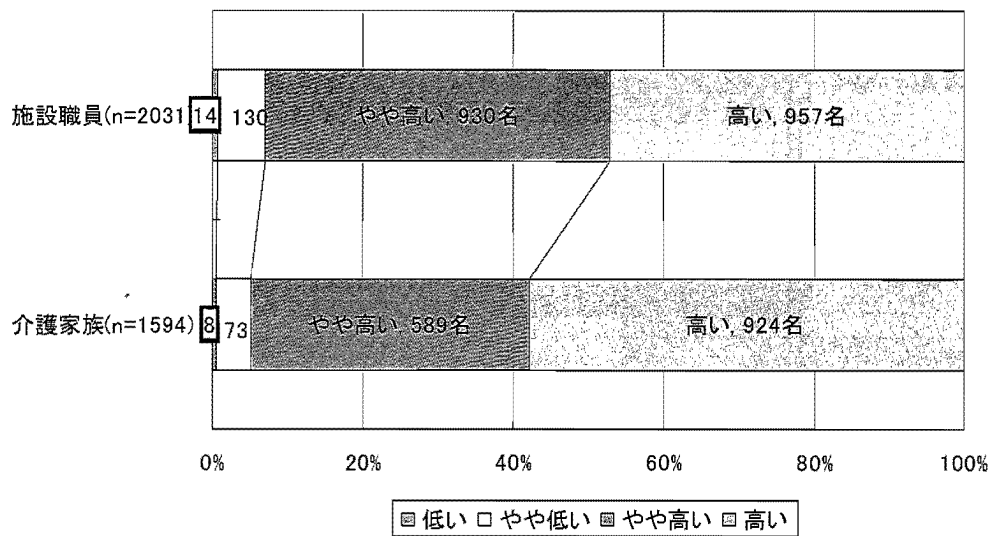


図3-8 資料の充実度

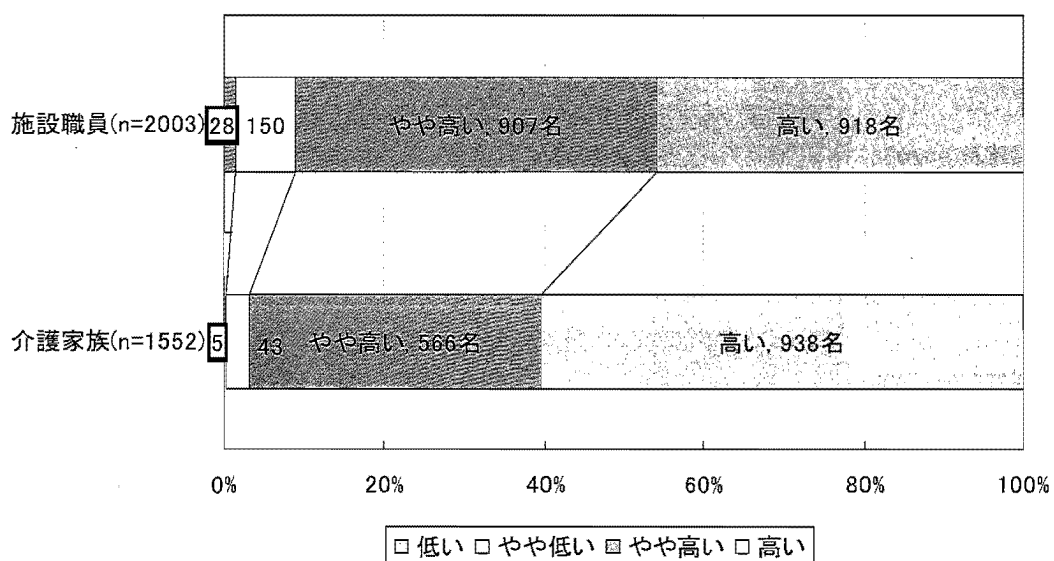


図3-9 ディスカッション参加度

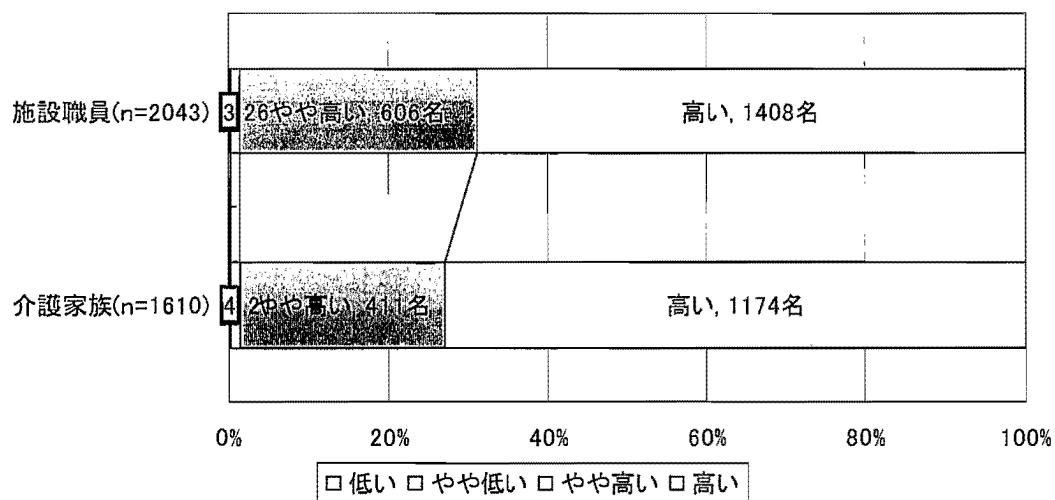


図3-10 活用度

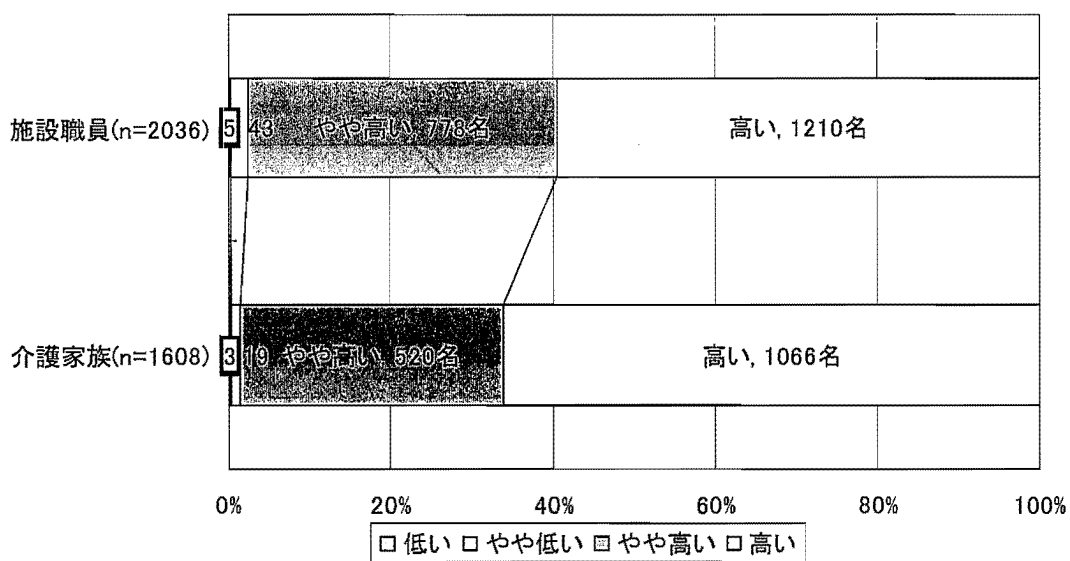


図3-11 全体満足度

4 章 テキストの実用性評価

1. 評価目的

モデル事業では、昨年度作成した教育支援プログラム実施マニュアルと、講師用の資料ならびに講義、演習パワーポイントの解説をパッケージした講師マニュアルの検証をおこなった。マニュアルは、講師が解説する内容を口語体で記述し、教員だけではなく、実務者だれもが講師となれるように配慮して作成された。全8巻で、1巻について、類似する内容で3テーマを用意した。

2. 方法

テキストは説明会に参加したモデル事業実施事業所に各2冊ずつ配布した。モデル事業実施の条件として、①認知症のテーマを1回は取り扱う、②3回以上の連続の講座とする、③基本的にはマニュアルを使用する。この3点を条件として実施し評価を得た（資料6）。

評価票は、講座の回数分事前に配布し、講義担当講師が、修了後に記入することとした。回収は、平成18年12月と平成19年2月の2回に分けて郵送で回収した。

3. 結果

全56事業所で実施されたモデル事業のなかから213回分の講座のテキスト評価を得た。

講義担当講師の属性は、「自施設や法人の職員」が担当している場合が最も多かった（189名）。これは、モデル事業のコンセプトに合致するものである（図4-1）。

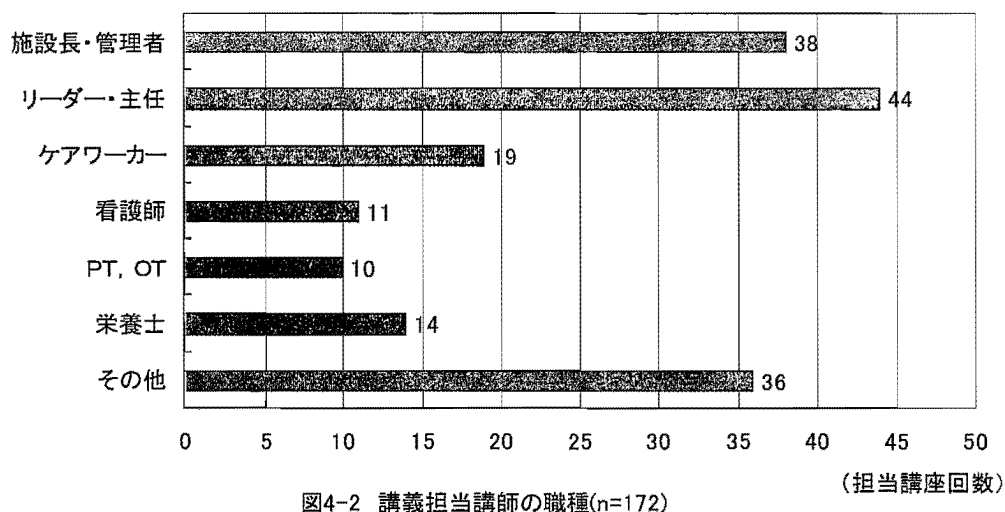
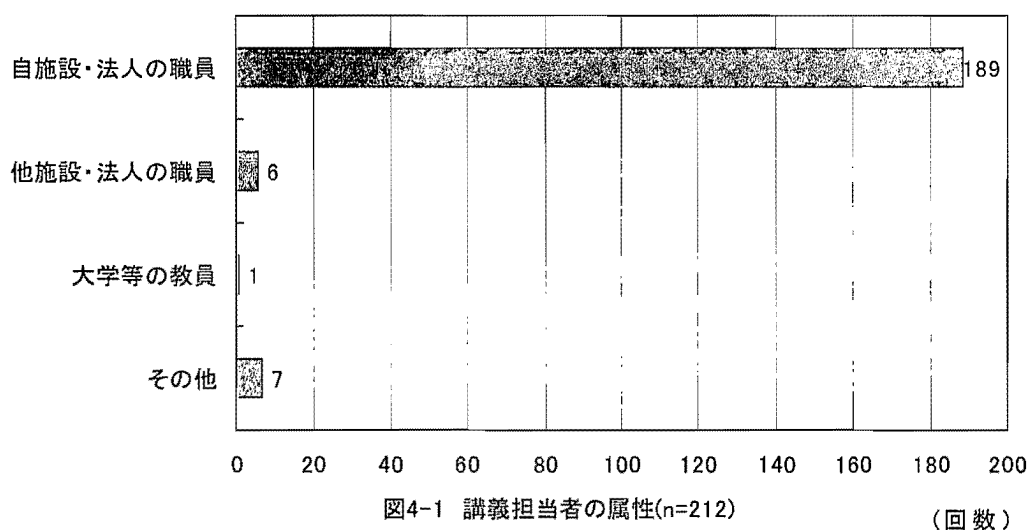
その職種では、リーダーや主任（44名）が最も多く、次いで施設長、管理者（38名）であった。職場でも指導的立場にある人材が担当している割合が高い（図4-2）。

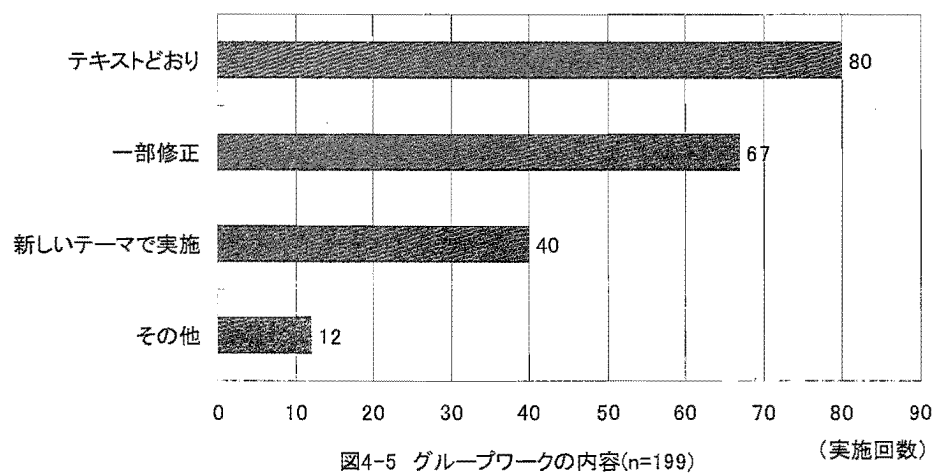
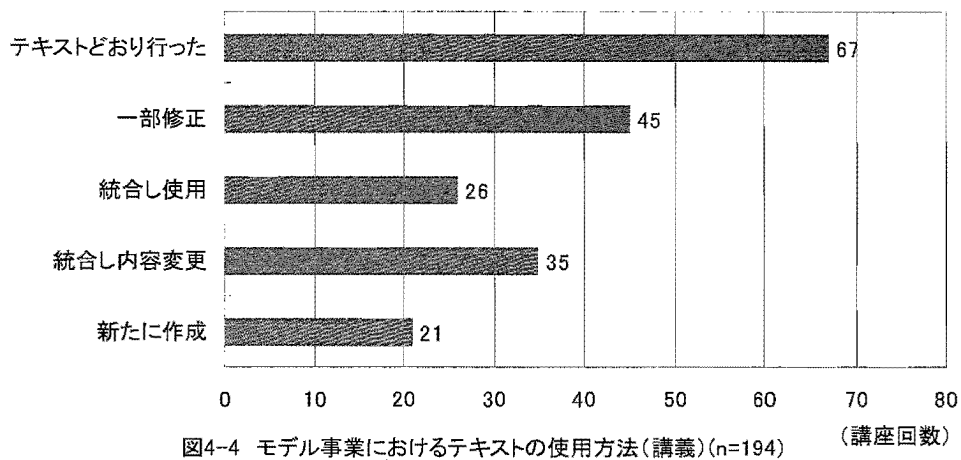
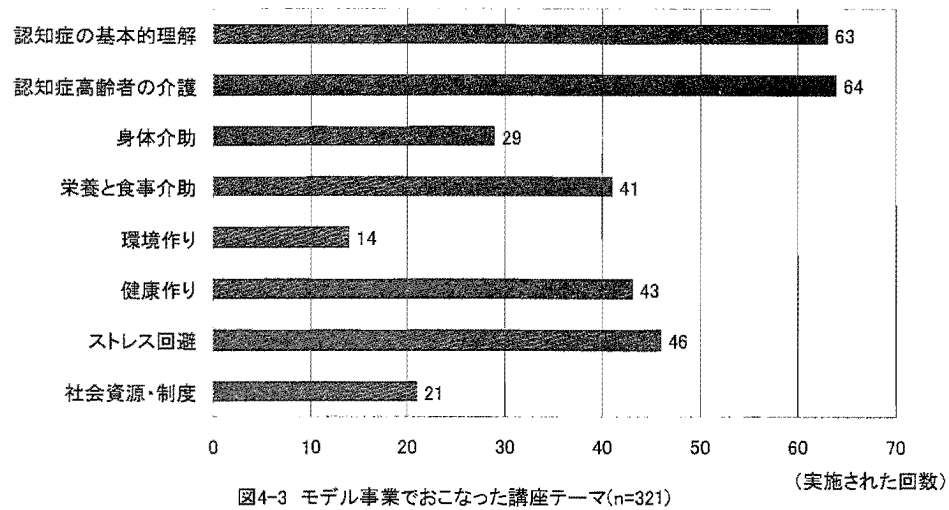
モデル事業の講座テーマは、全321タイトルであった。そのうち最も多く実施されたのが、認知症高齢者介護の理解（64回）で、次いで、「認知症の基本的理解」（63回）であった。次に、「ストレス回避」（46回）、「健康作り」（43回）と続いた。一方最も回数が少なかったのは「環境作り」であった（14回）。認知症に関する内容は、モデル事業の条件として掲げていた影響も考えられる。環境については、応用的内容であるために、講座開催回数が少ない事業所では取り

扱いが困難であったことが考えられる（図４－３）。なお、実施されたテーマの一覧は資料に添付した（資料７）。

テキストの活用度の講義関連部については、全１９４講座中「テキスト通りおこなった」（６７回）講座が最も多く、次いで、「一部修正しておこなった」（４５回）であった。また、「統合し内容を変更しておこなった」（３５回）講座も多かった。一方、「新たに作成」（２１回）も見られた。テキスト間の内容のすりあわせや、順序の入れ替えを検討する必要がある（図４－４）。

グループワークについては、１９９講座中「テキスト通りおこなった」（８０回）で、「一部修正しておこなった」（６７回）でほとんどの講座がテキストを活用して行われていた（図４－５）。





5 章 プロセス評価（ヒアリング調査と事業評価）

1. 評価目的

教育支援プログラムは、事業規模、予算、講義担当講師等を選ばずに、いかなる地域、事業所においても実施できることを目標としている。したがって、効果的に普及するためには各事業所において行なわれた講座のテーマ以外に、その具体的な事例を蓄積し共有することが重要になる。そこで、プロセス評価では、各事業所で行なわれたモデル事業の実施時における様々な課題とその改善例を抽出し、他の事業所が実施する際の資料を得ることを目的として行った。また、あわせて実施されたヒアリング調査においては、調査票では表現が困難である雰囲気や会場全体の動きなどをヒアリング形式で行なった。

2. 方法

事業評価の対象者は、調査票を用いてモデル事業実施事業所のうち、ブロック推進事業所と島根の事業所を除く 50 施設の運営スタッフにモデル事業修了後に郵送し、記入後郵送または電子メールで返信を依頼した（資料 8）。

ヒアリング調査は、ブロック推進施設 6 事業所が評価者となり、56 箇所のモデル事業実施施設の調査を行なった。ヒアリング調査は自事業所において講座を担当している職員 2 名が、聴き取りと観察によって所定の調査票に記入した（資料 9）。

それぞれの調査期間は、事業評価は各モデル事業が終了する平成 19 年 3 月 7 日～21 日であり、ヒアリング調査については、平成 18 年 10 月～平成 19 年 1 月の間の対象施設においてモデル事業が実施される日程に合わせて行なった。

3. 結果

1) 事業評価

事業評価は、モデル事業実施 50 施設中、41 事業所から回答を得た（3 月 21 日現在）。事業評価の内容は以下のとおりである。また、内容は、改訂版テキストの内容に反映させた。

2) ヒアリング調査

ヒアリング調査は、56 箇所に 95 名が調査員として訪問した。調査の日程と調査員の分担は資料のとおりである（資料 10）。なお、調査の結果は、

改訂版テキストとして反映し、映像教材は選定された8事業所においてビデオ撮影を行い編集をして作成した。撮影については、使用目的ならびに使用方法について参加者の同意を得た上で撮影し、講義担当講師については同意書に同意のうえ実施した。

6 章 教育支援プログラムの効果測定

1. 評価目的

本事業は、家族と施設職員それぞれに参加による効果を期待して実施している。家族については、①参加によって得た介護の知識や技術を実際の場面で活用することによって、介護の負担感の軽減と介護への肯定的評価を得ること②相互参加型講座への参加を通じて家族間や施設職員とのコミュニケーション機会の増加とそれによる情報交換の促進を期待している。施設職員については、①参加することによって家族の意見、想いを理解することによって介護に関するアセスメントやケアプラン作成の質の向上、②家族だけではなく、講座をとおして参加した施設職員とのコミュニケーション機会の増加、チームワークの醸成を図ることをねらいとしている。

これらから、教育支援プログラムの効果測定は、家族は、①介護負担感の軽減、②介護の肯定的評価の向上、③家族間のコミュニケーション機会の増加、施設職員とのコミュニケーション機会の増加、④認知症介護の自律性の向上を測定すること。施設職員は、①家族とのコミュニケーション機会の増加、②職員間のコミュニケーション機会の増加、③認知症介護の自律性の向上、それぞれを測定し、教育支援プログラムの参加の効果を測定することが目的である。

2. 方法

対象者は、56カ所で実施された教育支援プログラムに参加した家族、施設職員である。事前調査の配布は、講座の初回参加時に配布し、回収した（資料11）。事後調査は、講座の最終回に配布し、回収した。調査の主旨ならびに使用方法は、それぞれの講座の司会者が参加者に説明し、同意が得られた者を対象者とした（資料12）。なお、各調査票の回収は、平成18年10月に事前調査の回収を行い、平成19年3月に事後調査の回収を郵送にて返送を依頼した。

3. 結果

1) 家族の属性

家族の属性は表6-1に示したとおりである。事後の対象者減少は、最終回に参加できなかった家族などの追跡ができなかったケースを含んでいることが要因である。全体の傾向として女性が8割を占めており、平均年齢が6

0歳を越えている。在宅介護の有無については、「以前していた」を含めると60.3%が介護を経験していた。また、サービス満足度は7割以上が満足していることが明らかになった。

表6-1 教育支援プログラム参加者(家族)基本属性

		事前	事後
参加者年齢		63.6±11.8	64.8±10.9
参加者性別			
	男性	223名 (17%)	84名 (13%)
	女性	1083名 (83%)	561名 (87%)
	計	1306名	645名
要介護者の有無			
	あり	539名 (44.3%)	275名 (44.9%)
	なし	483名 (39.7%)	224名 (36.5%)
	以前していた	192名 (16%)	114名 (18.6%)
	計	1214名	613名
サービス満足度			
	満足	565名 (73%)	300名 (73.8%)
	やや満足	190名 (25%)	103名 (25%)
	やや不満	13名 (1.7%)	5名 (1%)
	不満	5名 (0.6%)	1名 (0.2%)
	計	773名	409名

参加した家族が介護する要介護者の属性は、表 6－2 に示したとおりである。要介護者は、80 歳を越えており、その属性は「親」「義理の親」が 6 割を占めていた。また、自立度は 6 割弱がランク A 以上で、認知症は 8 割が認知症であることから、介護の必要性も高いことが明らかになった。

表 6－2 要介護者の属性

事前		事後
要介護者の年齢	82.7 ± 9.2	83.3 ± 9.1
要介護者の性別		
男性	286 名 (34%)	163 名 (38%)
女性	545 名 (66%)	268 名 (62%)
計	813 名	
要介護者の属性		
親	379 名 (46%)	179 名 (43%)
義理の親	161 名 (20%)	89 名 (20%)
配偶者	211 名 (25%)	117 名 (28%)
兄弟	14 名 (2%)	7 名 (1.5%)
義理の兄弟	5 名 (0.5%)	2 名 (0.5%)
祖父母	16 名 (2%)	6 名 (1.5%)
その他	35 名 (4.5%)	17 名 (4.5%)
身体的自立度		
自立	94 名 (11%)	
ランク J	200 名 (24%)	
ランク A	112 名 (14%)	
ランク B	230 名 (28%)	
ランク C	191 名 (23%)	
認知症		
認知症なし	155 名 (19%)	
軽度	274 名 (33%)	
中等度	246 名 (30%)	
重度	154 名 (19%)	

図 6－1 は、家族が利用しているサービスを示したものである。最も利用の多いサービスは「デイサービス」(492名) 次いで「ショートステイ」(214名) であった。在宅サービス利用の家族が多く参加していることが明らかになった。

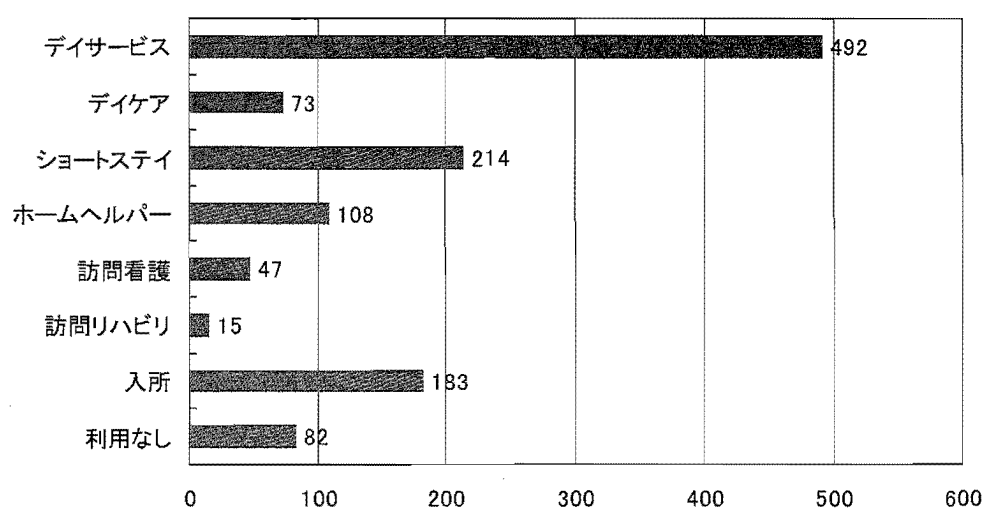


図6-1 利用しているサービス (人数)

図 6－2 は、何回講座に参加したかを示したものである。最も多かったのが「6回」(166名) であった。モデル事業実施事業所によって講座の回数は、3回～6回の差があるためにこのような結果となった。

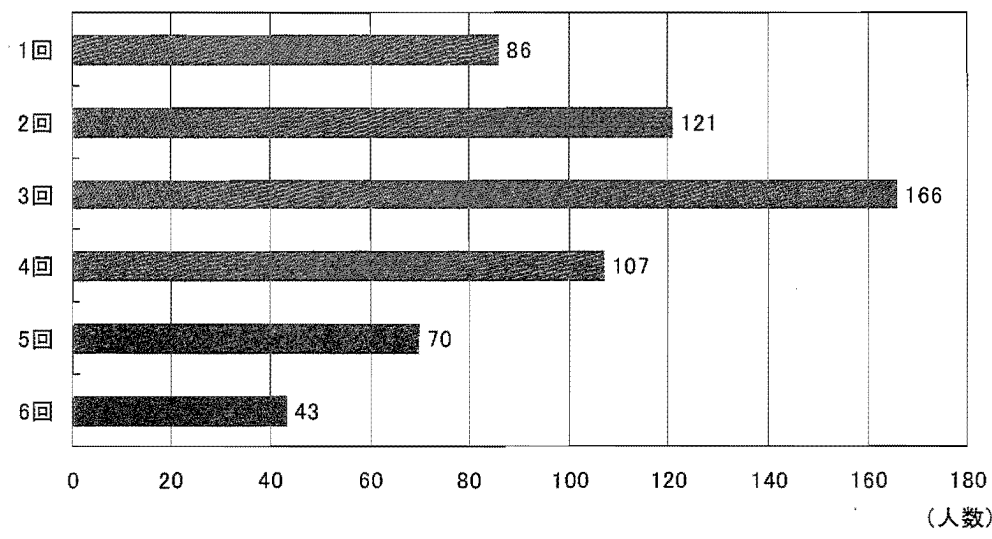


図6-2 講座参加回数

2) 職員とのコミュニケーション意識と態度の変容

参加した家族に「職員とのコミュニケーションが充分にとれていますか」と聞いたところ「充分とれている」が最も多い回答であった。事前事後での比較では、参加後の方がコミュニケーションが「充分にとれている」(63%)と回答した家族が多かった。

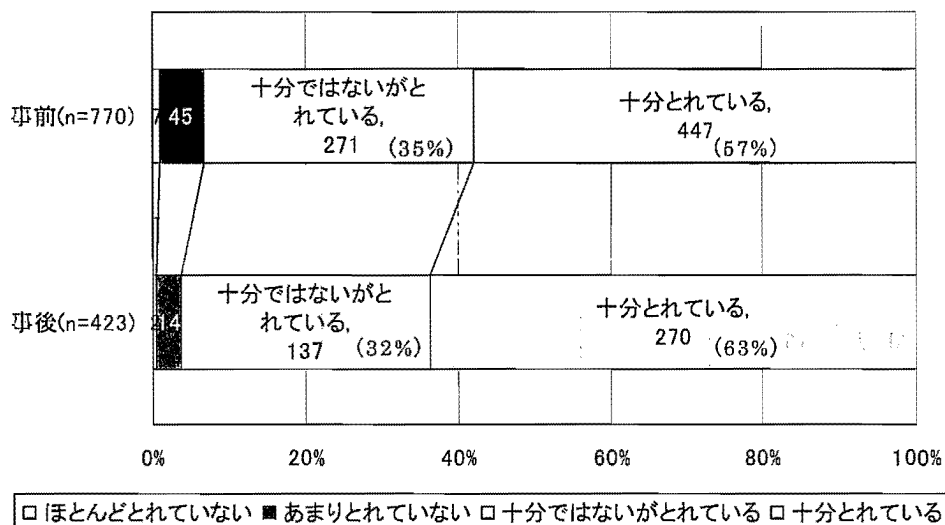


図6-3 職員とのコミュニケーションは十分とれていますか

参加した家族に「利用している施設に介護について相談できる職員がいるか」を聞いたところ、「数人いる」が最も多かった。事前事後で比較をすると、参加することによって「大勢いる」(20%)の割合が増加していることが明らかになった。

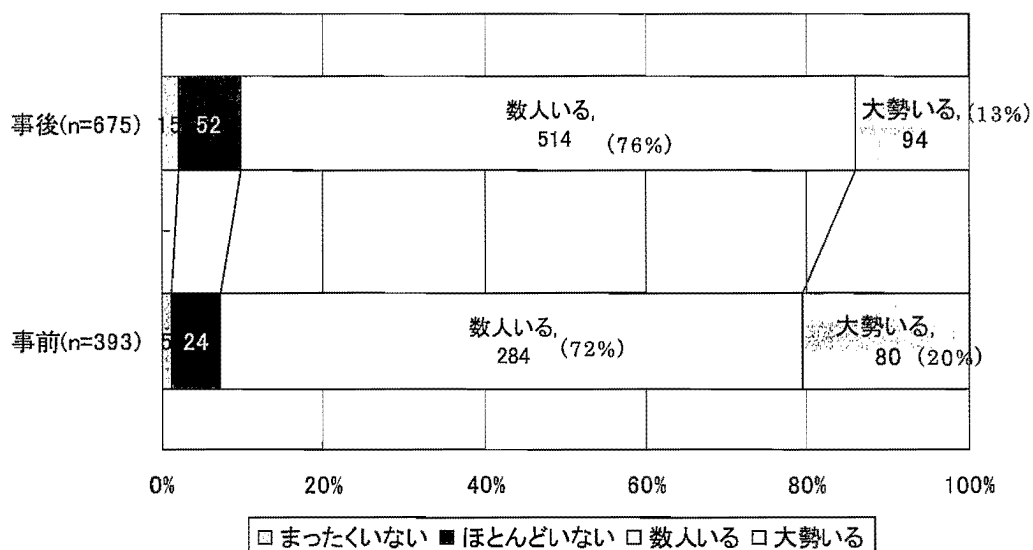


図6-4 相談できる職員はいるか

参加した家族に「施設の職員に在宅介護のことについて相談したいか」を聞いたところ、「相談したい」と「どちらかといえば相談したい」の割合が多かった。事前事後で比較したところ、事後の方が「相談したい」という回答が増加していることが明らかになった。

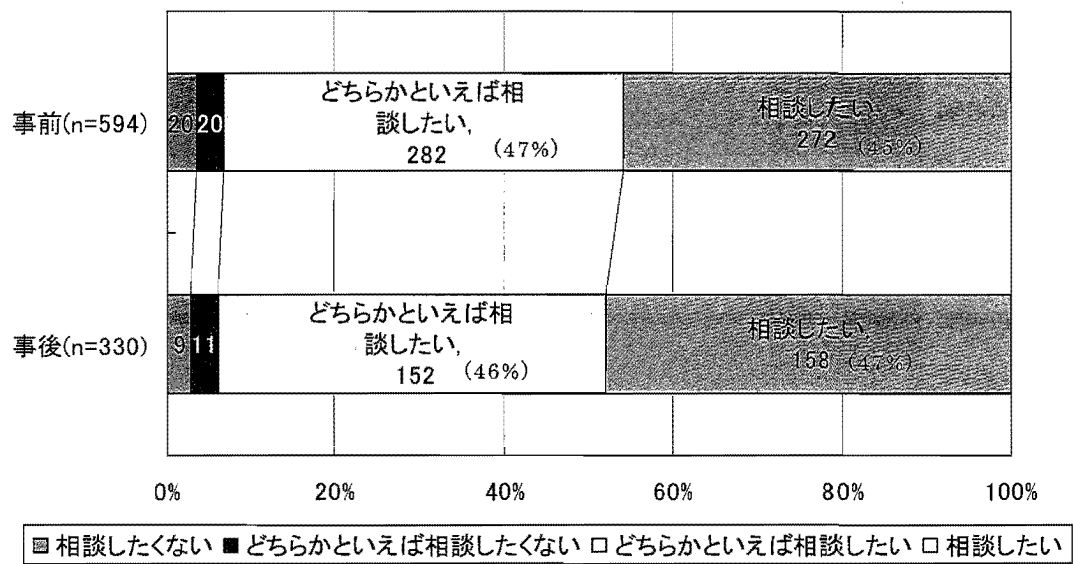


図6-5 職員に在宅介護について相談したいか

3) 家族間のコミュニケーション意識と態度の変容

「施設サービスを利用する他の家族と介護についての話をしたいか」を聞いたところ、「すこしそう思う」という回答が最も割合が多かった。事前事後の比較では、事後で「非常にそう思う」(29%)の割合が事前より多くなったことが明らかになった。

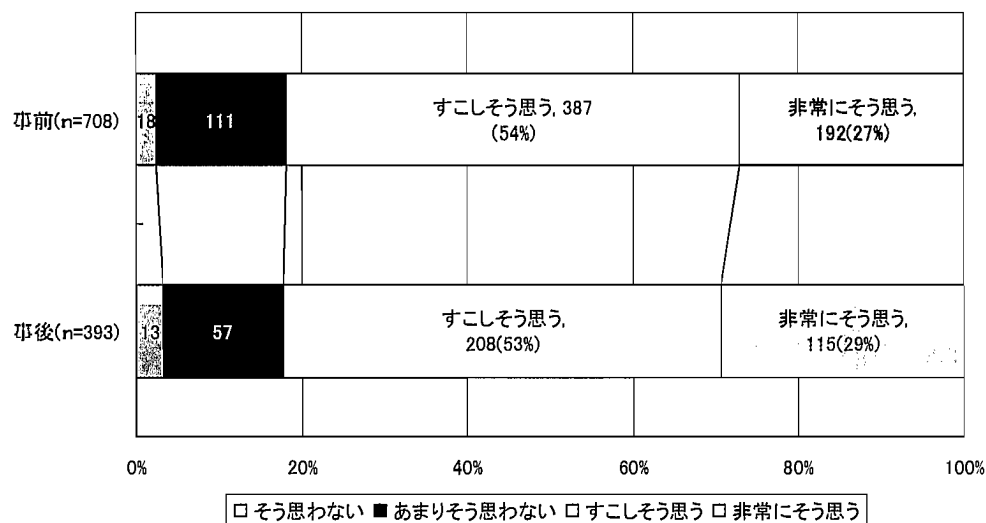


図6-6 他の家族と話をしたいと思うか

「施設サービスを利用する他の家族と話をできる機会があるか」を聞いたところ「顔を合わせれば話をできる」が最も多い回答であった。事前事後の比較では、事後では「話をすることが全くない」(10%)が減少し、「顔を合わせれば話をできる」(47%)が増加していることが明らかになった。

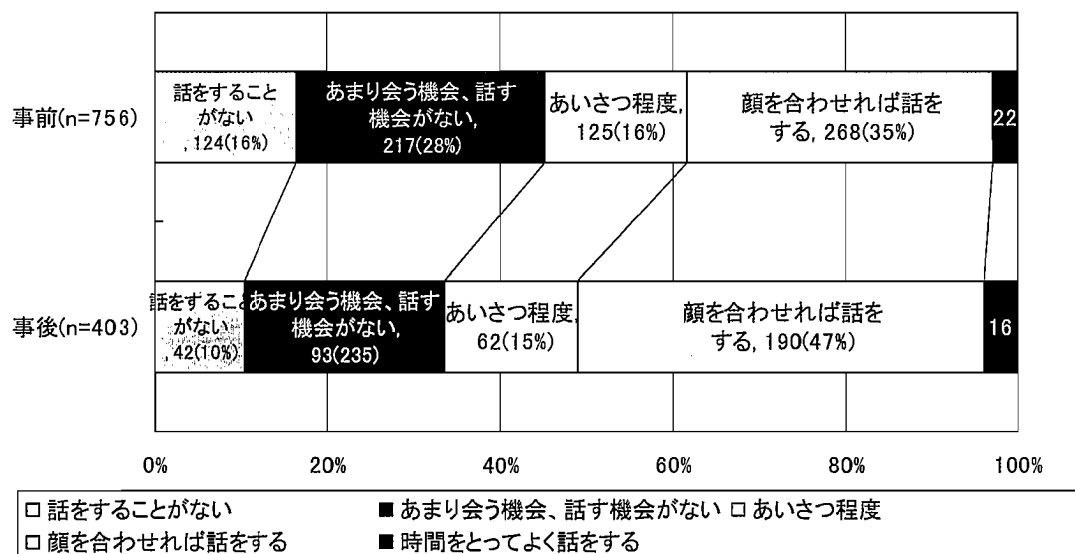


図6-7 他の家族と話し機会があるか

4) 介護負担尺度得点の変容

介護負担感を Zarit 介護負担尺度日本語版(短縮版)[J-ZBI 8](荒井 2002)を使用した。最高は 32 点である。結果は、得点が低い方が介護負担感が軽減していると解釈する。

結果、事前調査では、10.24 点で事後が 10.00 点で参加による介護負担感の効果が認められた。

表 6-3 Zarit 介護負担尺度得点の比較

項 目		事前	事後
1	介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうと思うことがありますか	1.81	1.71
2	介護を受けている方のそばにいと腹が立つことがありますか	1.31	1.34
3	介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	1.10	1.06
4	介護を受けている方のそばにいと、気が休まらないと思いますか	1.37	1.38
5	介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことはありますか	1.29	1.30
6	介護を受けている方が家にいるので、友達を家に呼びたくても呼べないと思ったことがありますか	0.91	0.95
7	介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか	0.94	0.92
8	介護を受けている方に対して、どうしていいか判らないと思うことはありますか	1.27	1.24
尺度総得点平均		10.24	10.00

5) 介護の肯定的評価得点の変容

介護肯定評価尺度（櫻井 1999）から 12 項目を使用した。得点が高い方が介護をより肯定的に評価していると解釈する。最高点は 48 点である。

結果、参加前が 32.55 点、参加後が 33.6 点で参加後の方が、介護を肯定的に評価し意味づけをおこなうようになっていることが明らかになった。

表 6 - 4 介護肯定評価尺度得点の比較

		事前	事後
1	介護を義務からではなく望んでいる	2.59	2.55
2	介護をするのが楽しいと感じる	2.15	2.17
3	介護をするのが自分の生きがいになっている	2.18	2.30
4	介護をすることによって満足感が得られる	2.35	2.55
5	介護をすることによって相手と親密になったように感じる	2.63	2.73
6	介護のおかげで人間的に成長したと思う	2.78	2.96
7	介護をすることで学ぶことがたくさんある	3.29	3.37
8	介護をすることは、自分の老後のためになると思う	3.21	3.28
9	介護のおかげで難しい状況に対処する力など自信がついた	2.73	2.87
10	介護を必要としている人が喜ぶのをみてうれしくなる	3.19	3.23
11	相手が介護に感謝したり、喜んでいると感じる	2.86	2.94
12	介護をしていて、逆に自分が元気づけられたり励まされたりする	2.70	2.74
	尺度総得点平均	32.55	33.6

6) 認知症介護の自律性尺度得点の変容

昨年の結果から作成した認知症介護の自律性尺度を使用して、講座参加前後の得点の比較を行った。得点が高いほど認知症介護の様々な場面で、自律的に行動できること解釈する。最高得点は、76点である。

平均得点を比較した結果、参加前が、53.19点で参加後が、53.24点で参加することによって自律的な行動ができると評価していることが明らかになった。

表6-5 認知症介護の自律性尺度得点の比較

項 目		事前	事後
1	認知症などによる言動の原因を本人の状態や情報から理解する事ができる	2.85	2.86
2	その人の環境への適応を促進するための取り組みが出来る	2.74	2.74
3	その人の環境の変化の影響を予測することができる	2.69	2.72
4	その人の言動の意味を共感して読み取ることが出来る	2.83	2.83
5	これまでの生活をなるべく変えないように環境を調整できる	2.95	2.98
6	現在の認知症の状態や身体状況を把握することができる	2.96	2.97
7	突然の心理的な変化を察知して対応を選択する事ができる	2.65	2.61
8	その人の適当な役割を提供したり一緒に行ったりできる	2.74	2.74
9	認知症のことで困ったとき医学的、心理的情報を集めることができる	2.55	2.62
10	その人が出来る事を推測する事ができる	2.80	2.81
11	その人の過去の経験を整理し、出来る事を選択する事ができる	2.79	2.79
12	1日や1週間のサイクルを考え、生活の支援をする事ができる	2.84	2.80
13	その人の不安や不快を察知し介護方法を選択できる	2.77	2.81
14	その人の介護に必要な用具を判断し適切に準備することができる	2.92	2.90
15	訴えを受け入れる事ができる	2.90	2.85
16	その人の現状と感情が一致しないときを知っている	2.84	2.84
17	突然の訴えや要望も躊躇（ちゅうちょ）せずに対応する事ができる	2.68	2.66
18	様々な言動からお年寄りの過去の生活のペースや生活習慣を読み取ることができる	2.90	2.89
19	その人がもつ多くの問題の中から最も優先すべき問題を選択できる	2.79	2.82
尺度全体総得点		53.19	53.24

7) 施設職員の属性

家族の属性は表6-6に示したとおりである。事後の対象者減少は、最終回に参加できなかった家族などの追跡ができなかったケースを含んでいることが要因である。事前事後共に女性が7割を占めており、平均年齢が30歳後半である。職種は、入所ケアワーカーとデイサービスの職員が多い。講座の参加形態は、事前では69.8%が参加者であったのに対し、事後では61%となり、運営スタッフの割合が高くなっていることが明らかになった。

表6-6 教育支援プログラム参加者(施設職員)基本属性

		事前	事後
参加者年齢		38.9±11.9	39.4±11.8
参加者性別			
	男性	345名(28%)	186名(28%)
	女性	899名(72%)	461名(72%)
	計	1244名	647名
職種			
	ケアワーカー	291名(24%)	157名(24.8%)
	デイサービス	233名(19.2%)	111名(17.5%)
	ショートステイ	20名(1.6%)	17名(2.7%)
	ケアマネ	145名(12%)	84名(13.3%)
	PT・OT	25名(2.1%)	10名(1.6%)
	ホームヘルパー	98名(8.1%)	32名(5.1%)
	看護師	105名(8.7%)	57名(9%)
	その他	296名(24.4%)	165名(26.1%)
講座の参加形態			
	参加者	783名(69.8%)	356名(61%)
	企画運営者	338名(30.2%)	229名(39%)

図 6－8 は、何回講座に参加したかを示したものである。最も多かったのが「3 回」(1 3 8 名)であった。モデル事業実施事業所によって講座の回数は、3 回～6 回の差があるためにこのような結果となった。

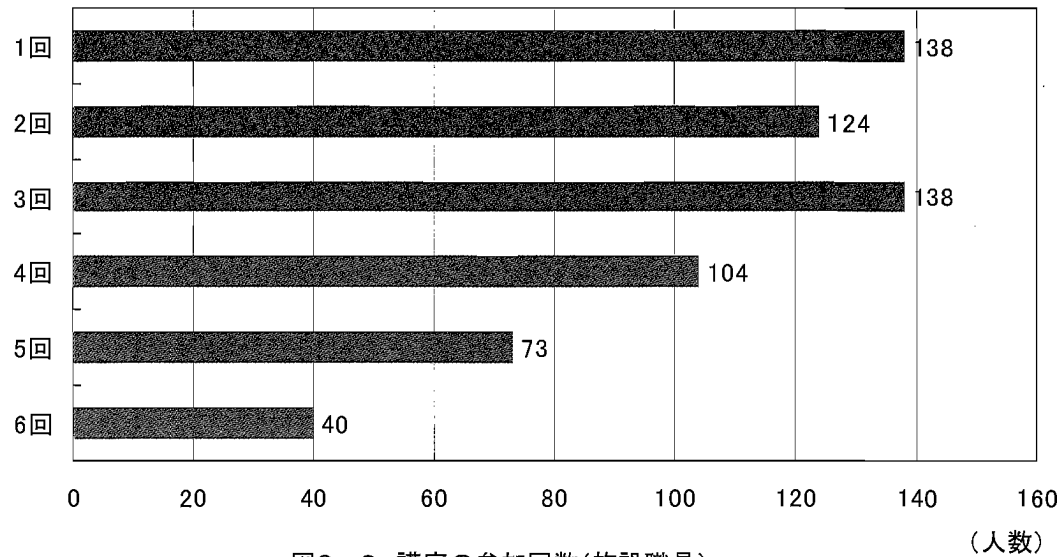


図6－8 講座の参加回数(施設職員)

8) 家族とのコミュニケーションの意識と態度の変容

「家族とのコミュニケーションが充分にとれていますか」と聞いたところ「充分ではないがある」が最も多い回答であった。事前事後での比較では、参加後の方がコミュニケーションが「充分にとれている」(13%)と「充分ではないがある」(49%)と増加していた。

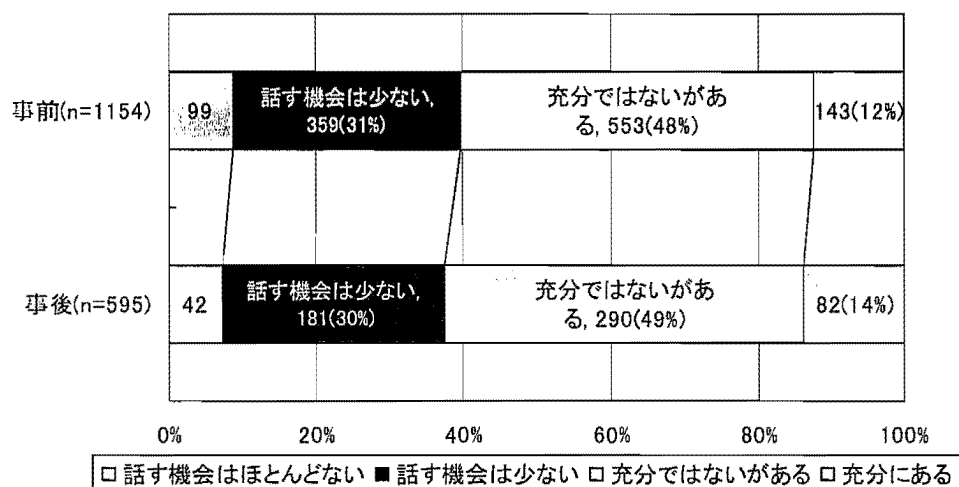


図6-9 家族と話す機会は充分か

「家族との情報交換の必要性を感じるか」と聞いたところ、「必要性を感じる」という回答が最も多かった。事前事後を比較してもほぼ同じ割合の回答であった。

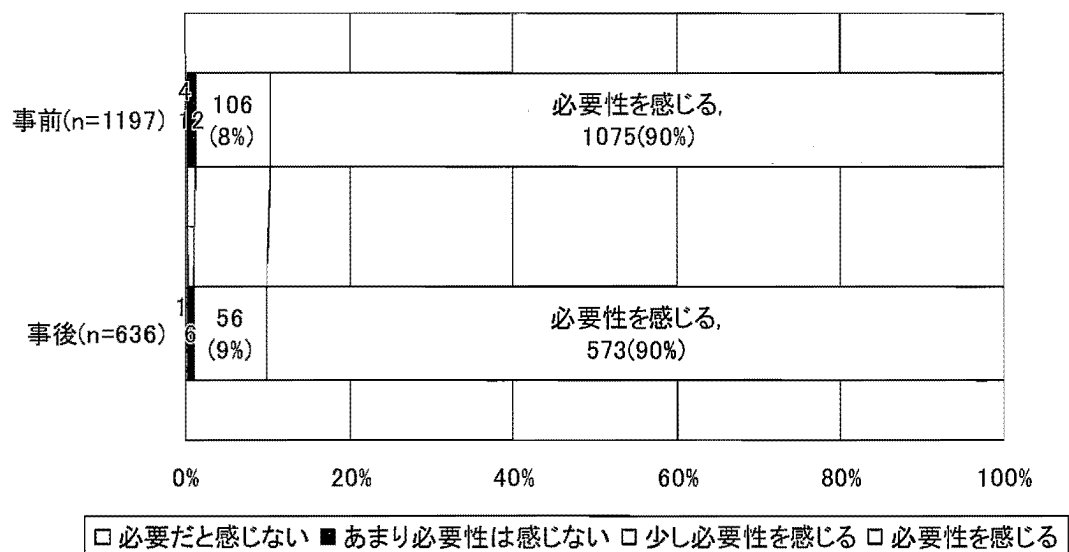


図6-10 家族との情報交換の必要性は感じるか

9) 施設職員間のコミュニケーション頻度の変容

「同じ職場のスタッフと介護について話し合う時間が充分にあるか」を聞いたところ、「充分ではないがある」という回答が最も多かった。事前事後の比較では、事後で「充分にある」(27%)で事前より減少する結果となった。

また、「充分ではないがある」(59%)が増加していた。

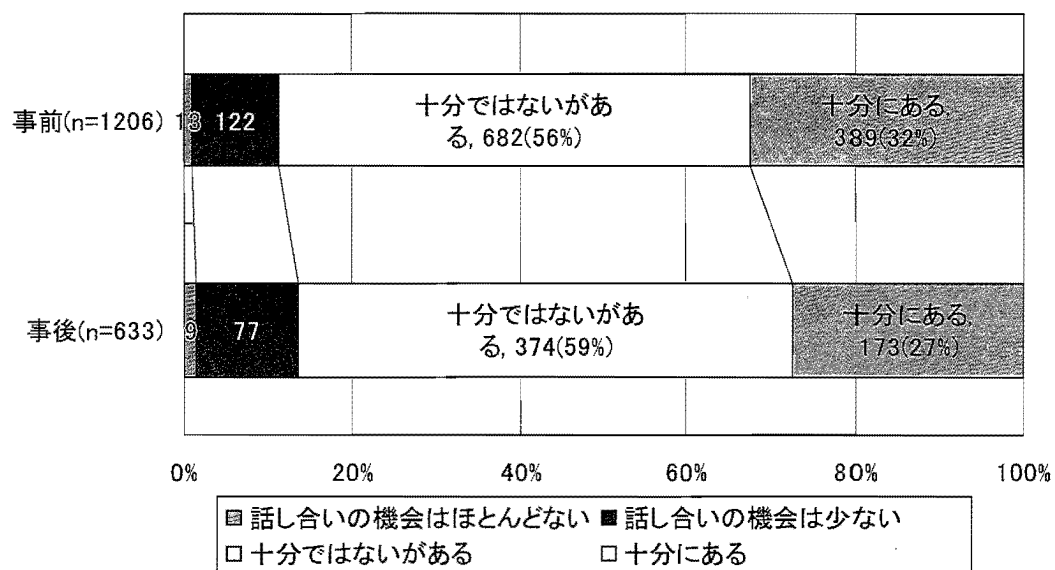


図6-11 職員間のコミュニケーションの時間はとれているか

10) 職員の職場のストレスの変容

「ここ1ヶ月で介護をする上で精神的負担を感じることがありましたか」と聞いたところ、「よくあった」、「たまにあった」を併せて70%を超えていた。事前事後を比較したところ、事後の方が「なかった」という回答がわずかに増加した。

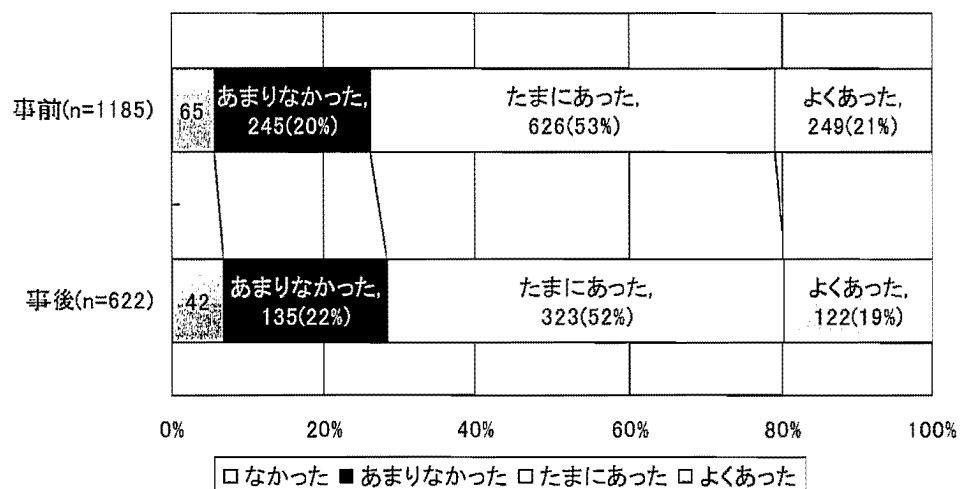


図6-12 介護をする上での精神的負担

「ここ1ヵ月間で、利用者との関係やコミュニケーションで精神的負担を感じることがありましたか」と聞いたところ「たまにあった」という回答が最も多かった。事前事後の比較では、事後の方が「あまりなかった」(29%)で多くなり、負担を感じることが少なくなっていることが明らかになった。

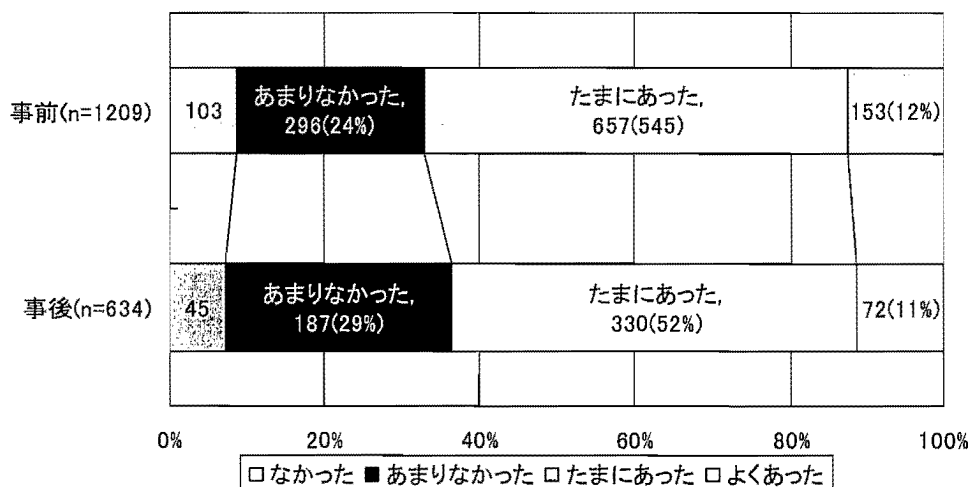


図6-13 利用者の関係やコミュニケーションでの精神的負担

「ここ1ヵ月間で、上司との関係で精神的負担を感じたことがありますか」と聞いたところ、事前、事後共に変化はなかった。

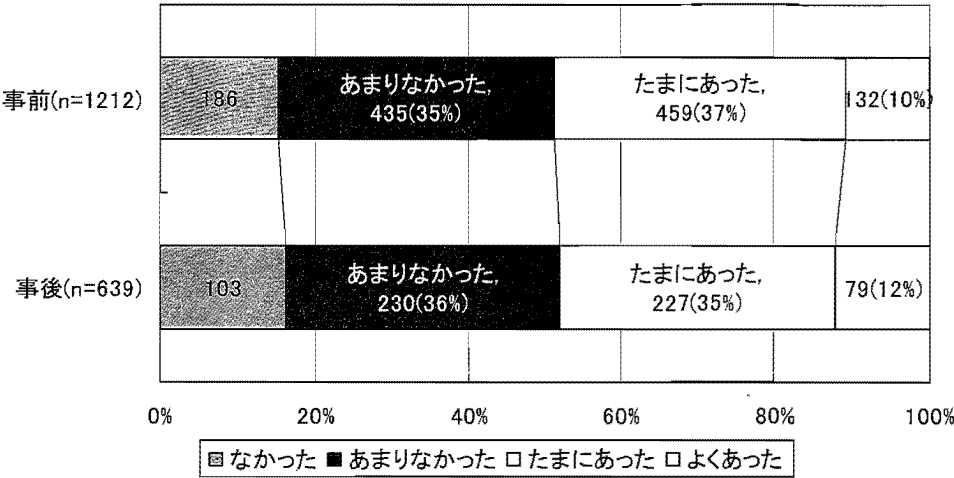


図6-14 上司との関係での精神的負担

「ここ1ヵ月間で、同僚との関係で精神的負担を感じたことがありますか」と聞いたところ、事前、事後共に変化はなかった。

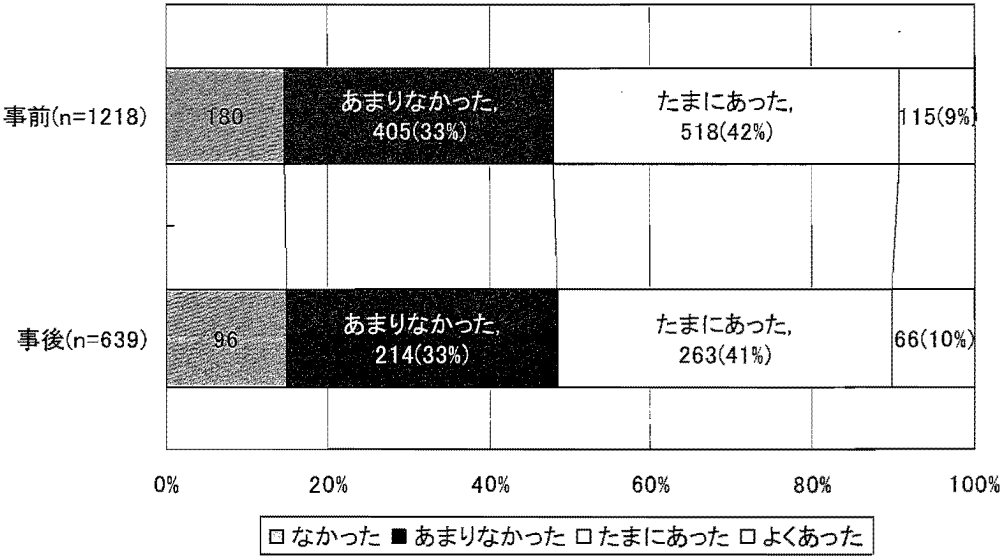


図6-15 同僚との関係での精神的負担

「ここ1ヵ月間で、勤務時間や休みについて精神的負担を感じたことがありますか」と聞いたところ、事前、事後共に変化はなかった。

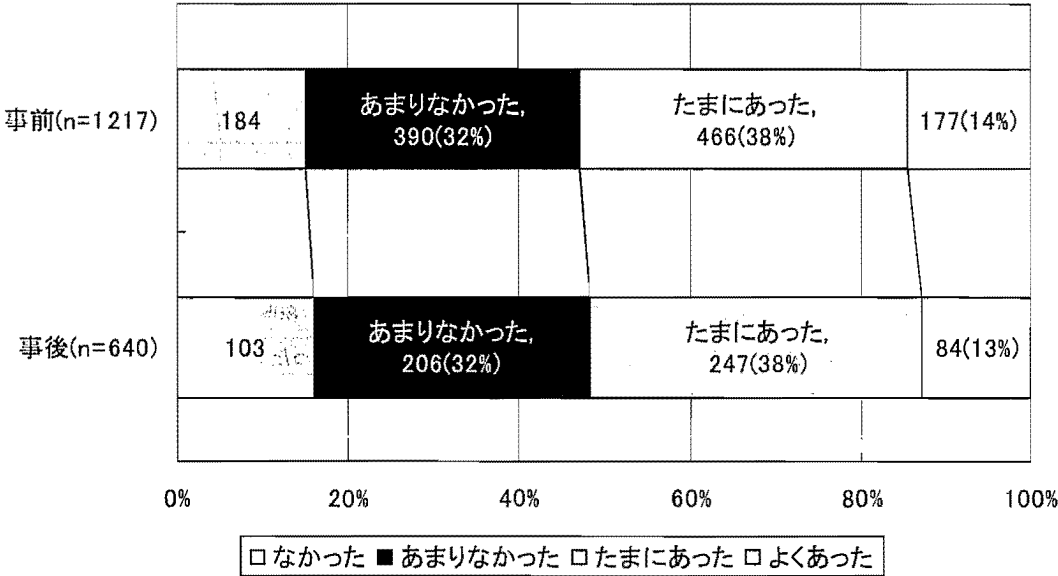


図6-16 勤務時間などの負担

1 1) 認知症介護の自律性尺度得点の変容

昨年の結果から作成した認知症介護の自律性尺度を使用して、講座参加前後の得点の比較をおこなった。得点が高いほど認知症介護の様々な場面で、自律的に行動できること解釈する。最高得点は、76点である。

平均得点を比較した結果、事前53.12点、事後53.86点で参加することによって自律的な行動ができると評価していることが明らかになった。

表6-7 認知症介護の自律性尺度得点の比較

項 目		事前	事後
1	認知症などによる言動の原因を本人の状態や情報から理解する事ができる	2.85	2.90
2	その人の環境への適応を促進するための取り組みが出来る	2.75	2.81
3	その人の環境の変化の影響を予測することができる	2.74	2.79
4	その人の言動の意味を共感して読み取ることが出来る	2.91	2.92
5	これまでの生活をなるべく変えないように環境を調整できる	2.65	2.67
6	現在の認知症の状態や身体状況を把握することができる	2.94	2.99
7	突然の心理的な変化を察知して対応を選択する事ができる	2.67	2.76
8	その人の適当な役割を提供したり一緒に行ったりできる	2.90	2.91
9	認知症のことで困ったとき医学的、心理的情報を集めることができる	2.74	2.80
10	その人が出来る事を推測する事ができる	2.86	2.91
11	その人の過去の経験を整理し、出来る事を選択する事ができる	2.74	2.78
12	1日や1週間のサイクルを考え、生活の支援をする事ができる	2.70	2.75
13	その人の不安や不快を察知し介護方法を選択できる	2.87	2.86
14	その人の介護に必要な用具を判断し適切に準備することができる	2.74	2.78
15	訴えを受け入れる事ができる	3.04	3.07
16	その人の現状と感情が一致しないときを知っている	2.82	2.84
17	突然の訴えや要望も躊躇（ちゅうちょ）せずに対応する事ができる	2.69	2.75
18	様々な言動からお年寄りの過去の生活のペースや生活習慣を読み取ることができる	2.77	2.77
19	その人がもつ多くの問題の中から最も優先すべき問題を選択できる	2.74	2.79
尺度全体総得点		53.12	53.86

1 2) 結果のまとめ

相互参加型の教育支援プログラム参加への効果を以下のようにまとめた。

A. 介護家族の参加効果

- ①コミュニケーションや情報交換の頻度が増加する
- ②在宅介護について相談できる職員が増加する
- ③職員への介護の相談意欲が向上する
- ④サービス家族間の情報交換への意欲が増加する
- ⑤サービス利用家族間の話をする機会が増加する
- ⑥介護の負担感が軽減する
- ⑦介護肯定評価が向上する（介護を肯定的に捉えることができる）
- ⑧認知症介護の自律性が向上する（認知症介護場面への自信がつく）

B. 施設職員の参加効果

- ①家族とのコミュニケーションをとる頻度が増加する
- ②施設職員間のコミュニケーションへの問題意識が増加
- ③施設職員の精神的負担が軽重に減少
- ④利用者とのコミュニケーションの精神的負担が減少
- ⑤上司、同僚、職場環境への負担感に変化なし
- ⑥認知症介護の自律性が向上する（認知症介護場面への自信がつく）

第7章 本事業の成果

本事業は、認知症高齢者を在宅で介護する家族に対する専門的知識・技術の向上をはかるために、在宅の介護家族とサービス提供事業所の介護職員相互参加型の介護講座「家族のための教育支援プログラム」を開発し、普及をおこなうことが目的であった。18年度は、17年度に開発された介護者教育支援プログラムを全国56カ所でモデル事業を展開したうえで検証し、その結果から全国へ広く普及するための改訂版テキストを作成することが目的であった。

事業目的の達成度については、全国56カ所で行った相互参加型介護講座には、延べ244回、開催総参加者数7,472名、(内訳家族3,188名、施設職員2,885名、企画運営者1,399名)(平成19年3月31日時点)にのぼり、事業全体が円滑に運営され、計画当初以上の成果が得られたと考えている。そして、多くの施設の協力によって昨年度作成した、改訂版テキストの検証がなされたことによって、改訂版テキストは非常に完成度の高い内容になったと考えている。また、ヒアリング調査をとおして得た、モデル事業から得た多くの意見によって補助資料としての映像テキストの完成度も高まった。

また、本事業では、教育支援プログラムの効果測定を、家族の視点、施設職員の視点からおこなった。モデル事業実施56事業所からの協力によって、2,500名を超える介護家族、施設職員のサンプルを得て有益な効果測定が可能となった。具体的には、介護家族の介護負担感は参加することによって軽減され、介護の肯定的評価は向上することが明らかになった。このことにより、本プログラムへの参加によって、在宅介護を担う家族の介護への意味づけの変容が期待できる。また、施設職員は参加によって施設を利用する家族とのコミュニケーションの頻度や質が向上していることも明らかになった。今回検証した結果から、地域包括支援センターも含めた来年度の全国的な普及に有効な資料になると思われる。なお、副次的な効果としては、今回参加していない近隣の施設からの開催希望や、新聞、TVなどの取材依頼などもあった。

本事業の普及については、今年度作成した「改訂版テキスト(運営マニュアル1巻)」「講義テキスト(3巻)」を、今年度モデル事業実施56事業所、都道府県・政令指定都市各所管課、全国地域包括支援センター連絡協議会に配布し、来年度の普及活動の協力を実施する予定である。

謝 辞

本事業にご協力いただきました多くのご家族の皆様と施設職員の皆様に厚く御礼申し上げます。また、モデル事業の企画、運営につきましては業務の外にもかかわらず労を惜しまずにご協力頂いた施設職員の皆様に深く感謝致します。

編集作業を手伝って頂いた皆様ありがとうございました。

板澤 寛（東北福祉大学大学院）

操 夏子 渡辺 圭 菅原聡子（東北福祉大学）

資料編

資料1 モデル事業実施施設一覧

都道府県名		
道南	社会福祉法人 幸清会	特別養護老人ホーム 幸豊ハイツ
札幌	社会福祉法人 宏友会	特別養護老人ホーム 西野ケアセンター
道東	社会福祉法人 釧路市社会福祉協議会阿寒支所	阿寒町デイサービスセンター
道北	社会福祉法人 さつき会	特別養護老人ホーム 鷹栖さつき苑
愛知	社会福祉法人 愛生福祉会	特別養護老人ホーム 庄内の里
富山	社会福祉法人 新川老人福祉会	特別養護老人ホーム 新川ヴィーラ
石川	社会福祉法人 長寿会	長寿園デイサービスセンター
長野	社会福祉法人 恵仁福祉協会	特別養護老人ホーム アザレアンさなだ
静岡	社会福祉法人 慈恵会	特別養護老人ホーム 西島寮
宮城	社会福祉法人 東北福祉会	特別養護老人ホーム せんだんの里
青森	医療法人社団 豊仁会	サンライフ豊寿苑
秋田	財団法人たかのす福祉公社	ケアタウンたかのす
岩手	社会福祉法人 岩手和敬会	山岸和敬荘
岩手	社会福祉法人 典人会	グループホーム ひまわり
福島	特定医療法人 明智会	介護老人保健施設 ライフケア鶴賀
山形	社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会	特別養護老人ホーム ながまち荘
栃木	社会福祉法人 津田福祉会	特別養護老人ホーム さつき荘
東京	社会福祉法人 正吉福祉会	府中市立特別養護老人ホームよつや苑
埼玉	医療法人財団 新生会	介護老人保健施設 高齢者ケアセンター ゆらぎ
東京	社会福祉法人 東京弘済園	三鷹市高齢者センター けやき苑
神奈川	社会福祉法人 麗寿会	ふれあいの森
千葉	社会福祉法人 佐倉厚生会	介護老人福祉施設 さくら苑
群馬	群馬県	群馬県立高齢者介護総合センター
茨城	医療法人社団 青洲会	介護老人保健施設 さくら
山梨		山梨県笛吹市社会福祉協議会
新潟	社会福祉法人 長岡三古老人福祉会	介護老人福祉施設 槇山けやき苑
大阪	社会福祉法人 聖徳会	大阪老人ホーム
兵庫	社会福祉法人 門真晋栄福祉会	グループホーム 宝塚ちどり
京都	社会福祉法人 清和園	吉祥ホーム
和歌山	社会福祉法人 高陽会	特別養護老人ホーム 高陽園
奈良	社会福祉法人 やすらぎ会	特別養護老人ホーム やすらぎ園
滋賀	社会福祉法人 近江和順会	特別養護老人ホーム 美松苑
三重	有限会社 イトファーマシー	デイハウス沙羅
岐阜	社会福祉法人 岐協福祉会	特別養護老人ホーム 大洞岐協苑
福井	財団法人 松原病院	福井中央北包括支援センター
大阪	社会福祉法人 玉美福祉会	特別養護老人ホーム 向日葵
広島	医療法人社団 常仁会	介護老人保健施設 サンスクエア沼南
岡山	医療法人 紀典会	老人保健施設 エスペランスわけ
鳥取	医療法人社団 もりもと	森本外科・脳神経外科医院
島根	医療法人 昌林会	介護老人保健施設 昌寿苑
山口	医療法人社団 青寿会	介護老人保健施設 青海荘
愛媛	社会福祉法人 松山紅梅会	梅本の里
香川	医療法人社団 功寿会	老人保健施設 千手苑
高知	医療法人 地塩会	介護老人保健施設 夢の里
徳島	医療法人 有誠会	老人保健施設 喜久寿苑
広島	医療法人 みやうち	介護老人保健施設 ひまわり
大分	社会福祉法人 同心会	特別養護老人ホーム 緑の園
大分	社会福祉法人 同心会	特別養護老人ホーム しおさい
福岡	社会福祉法人 初栄会	高齢者総合福祉施設 せいらくえん
長崎	社会福祉法人 ふるさと	特別養護老人ホーム ふるさと
佐賀	医療法人財団 友朋会	老人保健施設 朋寿苑
熊本	社会福祉法人 天龍会	特別養護老人ホーム すずらんの里
宮崎	社会福祉法人 日向厚生センター	介護老人福祉施設 皇寿園
鹿児島	社会福祉法人 輪光福祉会	特別養護老人ホーム 輪光無量寿園
沖縄	社会福祉法人 高洋会	特別養護老人ホーム 陽明園
大分	社会福祉法人 穂燈舎	特別養護老人ホーム 百華苑
福岡	社会福祉法人 山田福祉会	特別養護老人ホーム たちばな苑

…ブロック拠点施設(検討委員会委員が所属する施設で、それぞれの近隣地域のモデル施設を統括する)

資料2 モデル事業実施説明会の開催と参加者

No.	実施日	説明会実施場所 〔会場名〕	対象都道府県・地域	参加人数
1	平成18年 7月10日(月)	北海道 かでの2. 7 (北海道立道民活動センター)	道南、札幌、道東、道北、宮城	11
2	平成18年 7月26日(木)	宮城県 認知症介護研究・研修仙台センター	青森、秋田、岩手、福島、山形、 栃木、新潟	20
3	平成18年 7月22日(土)	東京都 認知症介護研究・研修東京センター	東京、埼玉、千葉、群馬、茨城、 山梨、宮城	13
4	平成18年 7月5日(水)	愛知県 特別養護老人ホーム 庄内の里	北海道、愛知、富山、石川、 長野、静岡、宮城	14
5	平成18年 7月20日(木)	大阪府 メルパルク大阪	大阪、兵庫、京都、和歌山、奈良、 滋賀、三重、岐阜、大阪、宮城	17
6	平成18年 7月22日(土)	広島県 ホテルセンチュリー21広島	広島、岡山、鳥取、島根、山口、 愛媛、香川、高知、徳島、宮城	21
7	平成18年 7月26日(水)	福岡県 博多グリーンホテル	大分、福岡、長崎、佐賀、宮崎、 鹿児島、沖縄、宮城	20

資料3 モデル事業実施説明会資料

資料 3 モデル事業実施説明会の資料

独立行政法人 福祉医療機構助成事業
介護家族への教育支援プログラムの開発事業

介護家族と施設職員の
相互参加型介護講座の概要

 認知症介護研究・研修仙台センター
SENDAI Dementia Care Research and Training Center

1

教育支援プログラム開発事業の概要

経緯

平成16年度 仙台（厚生労働省健康増進等事業）

平成17年度 北海道、仙台、東京、大阪、広島、大分
（福祉医療機構助成事業）

平成18年度 全国53ヶ所
モデル施設ヶ所、ブロック推進施設6施設

平成19年度 地域包括支援センター等を中心に展開予定

 SENDAI Dementia Care Research and Training Center

2

教育支援プログラムの意義

◆在宅サービスを提供する施設職員
認知症介護に必要な生活の継続性や個別性の尊重、尊厳の保持等を家族から情報を得ることによるケアの質向上
→家庭的な雰囲気理解

◆在宅で介護をする家族（介護家族）
施設やサービスへの安心感を向上させ、自身の介護の知識技術の向上へと繋がる。また、同じ境遇にある家族と施設職員との交流によって介護負担感の軽減

◆組織として
研修企画能力・チームワークの向上の仕掛けとして
地域との連携・地域への理解のきっかけ

 SENDAI Dementia Care Research and Training Center

3

モデル事業の目的

①昨年度作成した実施テキスト、マニュアル
の実用性、実行可能性の検証
→モデル施設へのアンケート調査とヒアリング

②講座参加による相互の介護負担の軽減と介護の自
律性向上の視点から有効性の検証
→参加者へのアンケート調査

 SENDAI Dementia Care Research and Training Center

4

企画運営の流れ

2ヶ月前 基本計画の作成 → 必要書類
実施要項

1ヶ月前 実行チームをつくる → 役割分担表 作業計画書

1ヶ月前 参加者の募集 → チラシ ポスター

当日 事前準備
交流講座当日運営 → 進行表

終了後 終了後のフォロー・評価表記入 → アンケート

5

ポスターとチラシについて

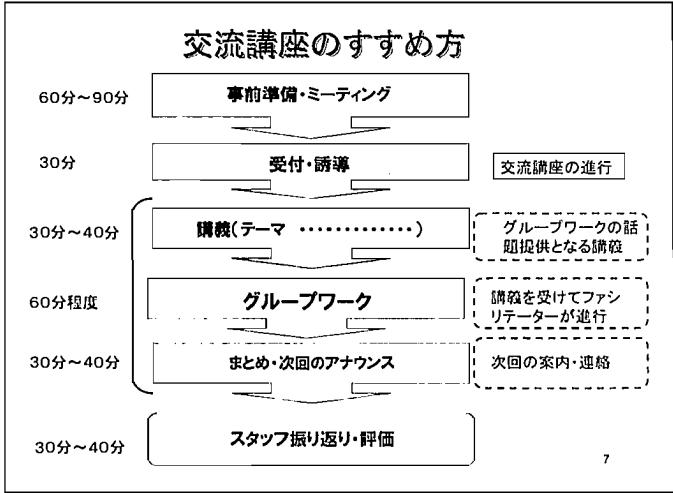
◆ポスター（A2版）
→仙台センターで作成します（50部）。
日程表を返送してください。

◆チラシ（A4版）
→仙台センターで作成します（必要部数）。

●様式に①チラシ枚数、②事業所名（担当者）、
③連絡先、④講座開催日（曜日）⑤テーマを記入して郵
送してください。

6

資料 3 モデル事業実施説明会の資料



テキスト、マニュアルの使用方法

- 実施の際は実施マニュアルをご使用ください。
- 全8タイトル(③～⑩)から好きなものを選びそれをそのまま使用する。
- 一巻につき3タイトル、全24タイトル。
- 認知症関連科目は必修
- 内容は改訂しても良い ただし評価表に記入してください
- GW、ファシリテーターマニュアルも同様に評価

テキスト・マニュアルタイトル

- ①交流型介護講座の実施マニュアル
- ②グループワークファシリテーターマニュアル
- ③認知症介護の基本的理解
- ④食事の講座内容
- ⑤高齢者の暮らしやすい環境
- ⑥社会資源・環境づくり
- ⑦介護者のストレス軽減
- ⑧身体介助・介護技術
- ⑨認知症の理解
- ⑩健康作りと介護予防

8 SENDAI Dementia Care Research and Training Center

有用性評価と効果測定

参加者にアンケート調査を依頼します。

- ①毎回のアンケート調査(有用性)
→研修評価(とくにグループワークを中心に)
- ②初回参加時と最終参加時の事前事後のアンケート調査
→研修の効果測定(介護負担感、介護自律性)

配布と回収をお願いします。

回収後は仙台センターに郵送をお願いいたします。

9 SENDAI Dementia Care Research and Training Center

ヒアリング調査と実用性評価

- ①ヒアリングおよび観察調査
→ブロック推進施設が訪問し聞き取り調査
(実施の困難さ、雰囲気、特徴、工夫)
訪問時期:実施期間中1回(各調整)
- ②テキスト実用性評価
→モデル施設による自己記入式のアンケート
(各回ごとに記入、改訂した箇所と内容、難しかったこと、分かりやすかったこと、提言)

10 SENDAI Dementia Care Research and Training Center

留意事項

- ①介護家族と施設職員が一緒に参加する
- ②グループワークを必ず入れる
介護家族と施設職員のディスカッションの場確保
- ③必ず一回は認知症に関するテーマを入れる
- ④ファシリテーターを育てましょう!
- ⑤講座の回数は6回を目標にしましょう!

11 SENDAI Dementia Care Research and Training Center

最後に

- ①有用性、効果測定、テキスト実用性評価は開始時までに郵送します。
- ②なるべくはやく日程表(様式)を記入して郵送してください。

今後の連絡について
チラシ、ポスター、アンケートに関しては仙台センター

交流講座の内容については、ブロック推進施設に

12 SENDAI Dementia Care Research and Training Center

資料4 モデル事業支援広報誌(ケアケア通信)

ケアケア通信

発行元：ケアケア推進室

発行元住所：宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149-1

TEL/FAX：022-277-5030

発行責任者：認知症介護研究・研修センター

研修研究員・研修指導主任 矢吹知之

*ケアケア交流講座は全国56カ所（47都道府県）で実施されています。

センター長挨拶

認知症介護研究・研修仙台センター

センター長 加藤伸司



認知症になって
も地域で暮らし
続けるためには、
家族と地域と施
設が一体になっ
て認知症ケアに

取り組み、考えていくことによって
認知症の人が安心して暮らせる地
域作りの実現が可能となります。
本事業は、そうした地域を作って
いくために、認知症高齢者を在宅で
介護する家族に対する専門的知
識・技術の向上をはかり在宅の介護
家族とサービス提供事業所の介護
職員相互参加型の介護講座を開催
し、その結果をもとに介護者教育支
援プログラムを作成し、広く全国に
普及させていくことを目的として
3年計画で実施されております。
昨年度は、全国6カ所で開催し、今
年は47都道府県すべてで実施さ
れております。すでに、いくつかの

地域ですでに実施され参加者から
好評の声や関係団体から問い合わせ
を頂いております。今年度は、皆
様の実践の結果をもとに、より実用
性の高いテキストを作成していく
ことを目指した事業を進めており
ますので、この趣旨をご理解頂き、
ご協力くださいますようお願い申
し上げます。

突撃となりの

ケアケアさん

仙台会場では9月16日（土）に
第1回ケアケア交流講座を実施し
ました！テーマは「お助け介護く技
術・用具・予防」で特別養護老人
ホームせんだんの里で行いました。
参加者は、家族17名、施設職員1
8名でバランスよく参加者が集ま
りました。今回は内容と運営につい
ての報告をしたいと思います。

まず、準備では毎週火曜日の夜に
約10名のユニットリーダーを中
心としたスタッフが集まり、「ああ
でもない」「こうでもない」と議論
しながら約2時間話し合いを行っ
ています。私たちはこのミーティン
グを通称「ケアっていいとも（友）」

と呼んでいます。今回の内容で一番
考えたのは、介護をする家族は何に
困っているのだろうか？と言うこと
でした。それを知るために、利用家
族数名に聞き取りを行い希望を聴
いたところ「大きな人を介助する方
法、骨折をした高齢者がその先どの
ようになつていくのが不安」など
が上げられ、先の見えない介護の指
針を示すことができたらしいので
はないかと考えて今回の内容にし
ました。

寸劇と、映像を交えながら、その
解決方法をグループワークを用い
て、家族と施設職員とで一緒に考え
ました。感想では、両者に非常に好
評で送迎の車の中でも「また参加し
たい」「楽しく学べました」などの
反響をいただきました。次回は、1
0月21日（土）に「地域資源の活
用」をテーマに行います。



（仙台ケアケア講座の様子）

「介護家族のための 教育支援プログラム」

モデル事業説明会について

6月から7月にかけて、北海道、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡の7つの会場で、全国47都道府県55箇所のモデル施設の担当者の方にご参集いただき説明会を開催しました。お忙しいところご参加頂き誠にありがとうございました。

様々な質問が寄せられました。ご不明の点があればケアケア推進室までご連絡下さい。

大切なお知らせ

各種調査票の取り扱いについての説明です。

先日、モデル事業の効果測定のための調査票を送付致しました。送付した内容は、以下の通りです。

- ① 事前調査（ピンク：家族用）
- ② 事前調査（黄色：施設職員用）
- ③ 毎回の評価表（講座の参加者評価）
- ④ テキスト評価表（担当者の方）

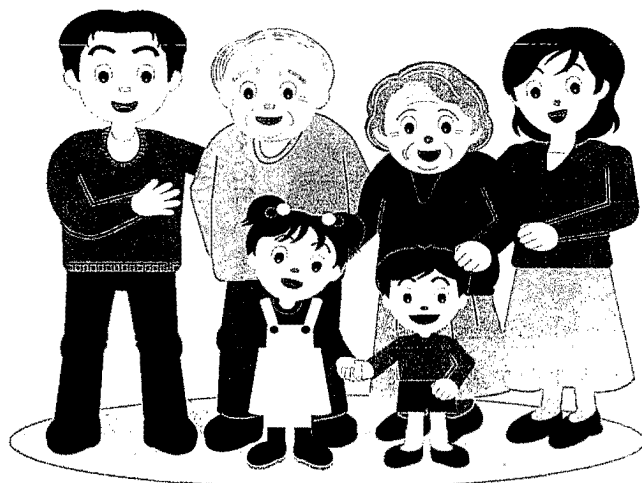
①と②の調査票は、初参加の方のみに受付時に配布し、その回に回収して下さい。例えば全6回実施する場合は、1～3回まで受付で確認し初参加の方に配布します。全4回開催の場合は1～2回のときに配布します。②の黄色の調査票は企画者や運営スタッフの方も記入して下さい。回収の際は「管理は仙台センターで厳密に行いますので、ご記名にご協力お願いします」と講座冒頭に参加者にお伝えいただけると幸いです。あわせて、③は、毎回の参加者に依頼し、④は、実施担当者の方にご記入をお願いします。また、それぞれの調査票は十一月に回収用封筒を送付しますので、お手数ですがそれに①②③④すべてを入れて返信して下さいますようお願い致します。

ケアケア推進室

設置しました！

昨年から実施してまいりました『介護家族への教育支援プログラム』（通称：ケアケア交流講座）を今年度より全国55施設で実施していくにあたり、この度ケアケア推進室なるものを設置いたしました。ケアケア交流講座に関する連絡や質問などはこちらの方へ連絡よろしく申し上げます。

また、ケアケア交流講座設置にあたり、担当者を東北福祉大学4年渡部と東北福祉大学3年千田（通称：チダミン）が担当することになりました。ポスターやチラシなどで電話連絡等させていただくこともあり、至らぬ点が多々あるかとは思いますが、これからよろしく申し上げます。



〈編集後記〉

いよいよケアケア講座も本格始動し始める時期ではないではないでしょうか。

これから、ケアケア通信をとおして皆様方に多くの情報を発信していきたいと思っております。ご意見、ご感想などあれば、お寄せください。

今後ともよろしくお願い致します。



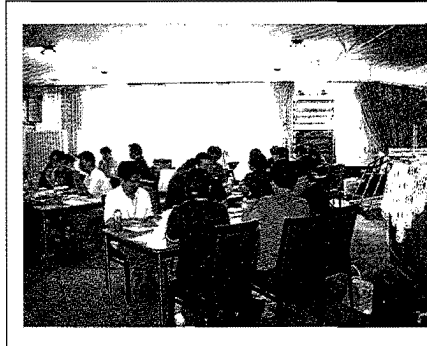
今回は、北海道・中部ブロック推進施設の「幸豊ハイツ」の講座を紹介します。

北海道道南会場では、8月に第1回を実施し3回まで終了しました。

参加者は、家族参加者が20名スタッフが20名と、毎回バランスよく、多い回では50名の参加者が集まりました。講義内容につきましては、家族参加者を対象に専門用語を使わないよう考慮したところ、家族参加者は「大変分かりやすく、理解する事が出来ました」と、スタッフについては「再確認することができた」と好評でした。グループワークでは、お菓子をつまみながら、テーマについてワイワイと賑わいながら活発な意見交換が行われており毎回時間が足りないくらいです。帰りの際には「すごく楽しかったよ。次回も電話頂戴ね。」「次回も是非参加するね。」等の反響も頂いております。

11月の第4回では「介護保険サービスについて」を行う予定です。

栄養士兼介護相談員 守屋 秀一



ヒアリング調査のお知らせ

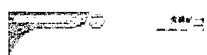
来月から、ヒアリング（聴き取り）調査が始まります。ブロック推進施設の担当者2名がみなさんの施設のケアケア交流講座に伺います。調査の内容は、全体の雰囲気、講座の工夫について、グループワークの内容などを観察ならびに聴き取り（ヒアリング）でおこないます。また、今年度末に皆様の事業所でおこなわれたケアケア交流講座をまとめた実施マニュアルとテキスト改訂版にはそれぞれのテーマについて1つの映像教材をつける予定ですので、ビデオ撮影を依頼する場合もありますのでその際は、ご協力お願いいたします。

調査票についてのお知らせ

- ア. 事前調査の回収を行います。封筒を送付いたしますので、返信をお願いいたします。
 - イ. 事後調査を同封いたしました。最終回または、最終回前に配布してください。回収は2月になります。
 - ウ. 毎回の参加者アンケートは2月に回収しますので大切に保管してください。
 - エ. 講義内容に関する調査票（担当者用）も2月に回収いたします。
- ご不明の点は、ケアケア推進室に問い合わせ下さい。

文献紹介～せっかくだから

このコーナーでは、ケアケア交流講座の参考文献として活用できそうなお勧め文献をせっかくなので紹介しよう、というコーナーです。今回は、本事業のテキスト編集委員長である長嶋先生の著書をせっかくなので紹介しようと思います。



認知症介護の基本



「認知症介護の基本」長嶋紀一編 中央法規 2006(ISBN4-8058-2721-1)

認知症高齢者の介護にかかわる人たちに必要な基本が分かりやすく示されています。医学的知識、介護理念、アセスメント、環境づくり、コミュニケーションの方法について、多くの事例をもとに理解できるように解説してあります。介護講座では、家族やスタッフなどさまざまな人が参加されますが、どんな方が聞いても参考になるような構成になっております。また、執筆者の多くが施設で働く方であるという点でも共感が得られると思います。是非講座の参考資料として使用してみてください。



ケアケア交流講座実施施設一覧

(北海道) 特別養護老人ホーム 幸豊ハイツ 0142-84-1124	(北海道) 特別養護老人ホーム 西野ケアセンター 011-669-6660	(北海道) 阿寒町デイサービスセンター 0154-66-1041
(北海道) 特別養護老人ホーム 鷹栖さつき苑 0166-87-3321	(愛知) 特別養護老人ホーム 庄内の里 052-505-1165	(富山) 特別養護老人ホーム 新川ヴィーラ 0765-24-6126
(石川) 長寿園デイサービスセンター 0768-84-2252	(静岡) 特別養護老人ホーム 西島寮 053-425-2000	(長野) 特別養護老人ホーム アザレアンさなだ 0268-72-2781
(山形) 特別養護老人ホーム ながまち荘 023-684-2391	(栃木) 特別養護老人ホーム さつき荘 0289-76-2959	(宮城) 特別養護老人ホーム せんだんの里 022-303-7552
(青森) 介護老人保健施設 サンライフ豊寿苑 0178-29-3232	(秋田) 財団法人たかのす福祉公社 ケアタウンたかのす 0186-60-0505	(岩手) 特別養護老人ホーム 山岸和敬荘 019-662-3281
(岩手) グループホーム ひまわり 0192-27-8605	(福島) 介護老人保健施設 ライフケア鶴賀 0242-33-0375	(埼玉) 介護老人保健施設高齢者ケアセン ター ゆらぎ 048-626-0660
(東京) 三鷹市高齢者センター けやき苑 0422-34-5440	(東京) 府中市立特別養護老人ホーム よつや苑 042-334-8133	(千葉) 介護老人福祉施設 さくら苑 043-486-5050
(群馬) 群馬県立高齢者介護総合センター 027-269-4380	(神奈川) 介護老人福祉施設 ふれあいの森 0467-54-2233	(山梨) 山梨県笛吹市社会福祉協議会 055-265-5182
(新潟) 介護老人福祉施設 榎山けやき苑 0258-29-2500	(茨城) 介護老人保健施設 さくら 029-833-1020	(兵庫) グループホーム 宝塚ちどり 0797-73-0880
(京都) 介護老人福祉施設 吉祥ホーム 075-682-8150	(大阪) 特別養護老人ホーム 大阪老人ホーム 072-331-4164	(奈良) 特別養護老人ホーム やすらぎ園 0743-69-2216
(滋賀) 特別養護老人ホーム 美松苑 0748-72-4705	(和歌山) 特別養護老人ホーム 高陽園 0736-73-5881	(岐阜) 特別養護老人ホーム 大洞岐協苑 058-241-7676

(福井) 福井中央北包括支援センター 0776-28-7271	(三重) 有限会社 イトーファーマシー デイハウス沙羅 059-382-8490	(大阪) 高齢者ケアセンター 向日葵 0729-66-7756
(岡山) 老人保健施設 エスペランスわけ 0869-93-1001	(広島) 介護老人保健施設 サンスクエア沼南 084-956-1177	(島根) 介護老人保健施設 昌寿苑 0854-22-3411
(山口) 介護老人保健施設 青海荘 0832-52-7124	(鳥取) 森本外科・脳神経外科医院 0858-53-0121	(香川) 老人保健施設 千手苑 0877-63-1010
(高知) 介護老人保健施設 夢の里 088-866-6666	(愛媛) 特別養護老人ホーム 梅本の里 089-975-6985	(広島) 介護老人保健施設 ひまわり 0829-38-3111
(徳島) 老人保健施設 喜久寿苑 088-674-7755	(大分) 特別養護老人ホーム 緑の園 0972-63-2762	(福岡) 高齢者総合福祉施設 せいらくえん 0947-62-3388
(長崎) 特別養護老人ホーム ふるさと 0959-32-0785	(大分) 特別養護老人ホーム しおさい 0972-85-0539	(熊本) 特別養護老人ホーム すずらんの里 0965-39-7511
(宮崎) 介護老人福祉施設 皇寿園 0985-24-8518	(佐賀) 老人保健施設 朋寿苑 0954-42-2900	(沖縄) 特別養護老人ホーム 陽明園 098-936-3565
(大分) 特別養護老人ホーム 百華苑 097-592-1513	(鹿児島) 特別養護老人ホーム 輪光無量寿園 099-482-1047	(福岡) 特別養護老人ホーム たちばな苑 0948-52-1477

ご協力、ありがとうございます!!

ケアケア！あるあるQ & Aコーナー

＜アンケートに関して＞

Q、テキスト評価票（講座担当者用）のアンケートは担当講師が書いて良いのですか？運営者の人数は、その回だけの運営者ですか？

A、テキスト評価票の記入に関しては、講師を外部の方に依頼している場合もあると思います。ので、交流講座全体を総括している方に記入して頂きたいと思います。アンケートには、使用テキストと訂正箇所に関しても記入するところがありますが、その欄は講師・スタッフの方と相談の上、記入をお願いします。運営者の人数に関しては、事前準備の段階から実際に企画・運営に携わった方の人数を記入するようにしてください。

【編集後記】

秋も深まり、仙台の木々の葉もだいぶ色づきはじめてました。皆様方の地域ではいかがでしょうか？もうすぐ冬も近づき始めますが、寒さに負けず元気にケアケア交流講座に取り組んでいきたいものです。

ケアケア通信

2006. 11. 14 第2号

発行元：ケアケア推進室

発行責任者：認知症介護研究・研修センター

発行元住所：宮城県仙台市青葉区国見6丁目1-49-1

認知症研究員・認知症介護士 矢吹知之

* ケアケア交流講座は全国56カ所（47都道府県）で実施されています。

在宅介護の理解とケアケア交流講座

全国56ヶ所のケアケア交流講座実施担当者のみなさん、こんにちは。

全国10箇所で開催した説明会から早3ヶ月が過ぎ、季節はもう晩秋、好んで飲んでいるコーヒーはアイスからホットコーヒーになりました。

1. あるグループディスカッションのエピソード

仙台でも、2回目の講座がつい先日終了しました。そこで、こんなエピソードがありました。私がファシリテーターをしていたグループでの話です。メインテーマは「地域で暮らし続けるためには」そのなかでAさんは75歳、認知症の奥さんの介護をされてもう10年近くなります。自己紹介のアイスブレイクの際もすでに介護の苦労話が始まります。講義中、ときどき考え事をしているようで反応がやや遅れたり、うわの空になったり…。気になります。何を考えているのか…。その疑問は、ディスカッションが始まるとすぐに分かりました。まるで、大音量の音量で聴いているオーディオのヘッドフォンを外したときのように。ディスカッションのテーマは「地域で暮らし続けたい理由は？」。そのグループには全部で3名のご家族さん、2名の施設職員内1人はケアマネ、そして私の計6名です。

「ケアマネはひどい。月に1回か2回電話してくるだけ。やっと慣れてきたと思ったら担当が替わりました。なんだよ。まったく話も聞いてくれないよ。ヘルパーのほうが全然いい。毎日のように来てよく話を聞いてくれる。」顔は紅く強張っています。同じグループのケアマネ困惑…。「さあ、どうしようファシリテーターはここが出番。」そのとき、別の家族の方が「わたしもそう思うときもありますよ。そんなときは何でもそのケアマネに言ってみるべきですよ。それでもダメだったら違う所を利用すればいいんですよ。」なんととても潔（いさぎよ）い。徐々に、Aさんの表情も和らいでいった。聴くと近所の理解も無く、白い目で見られている気がする、だれも話を聞いてくれない…。



（写真はイメージです）

2. ケアケア交流講座でできること

ケアケア交流講座の目的は、相互参加型講座により、こうしたご家族の悩みを施設職員が共有し、それをケアに生かすことによる施設ケアの質向上と、ご家族の介護の負担を軽減し介護の知識を提供することによって在宅介護に役立ててもらうことです。

このエピソードで私たちは学びました。「Aさんのようにご家族は、話をもっと聞いてほしい。私たちが思っている以上にご家族には信用してもらっていないのかもしれない。その人の立場になることは難しい。でも、その人のもっと近くに居られたら、対面ではなくそちら側に、その横に座らせてもらえませんか。」ケアケア交流講座では、ご家族の本音を聞ける。サービスとは直結しないかもしれないが、その場を共有することによって私たちが気づかされるべきことが多くあります。数式では表しにくいかもしれませんが、そんな雰囲気、そんな講座にできたらと考えています。



（矢吹知之 認知症介護研究・研修仙台センター）

ケアケア通信



2006. 12. 25 第3号

発行元：ケアケア推進室

発行元住所：宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘 6 丁目 149-1

TEL/FAX：022-277-5030

発行責任者：認知症介護研究・研修センター

研修研究員・研修指導主任 矢吹知之

*ケアケア交流講座は全国 56 カ所（47 都道府県）で実施されています。



突撃隣のケアケアさん年末スペシャル

「GW ちょっとの工夫でこの巧(うま)さ」

介護をする家族と、施設で働く職員の相互参加で行われている「ケアケア交流講座」は、現在、全国 56 箇所で開催されています。様々な苦労や工夫があり多くの施設や参加者からご好評をいただいております。いくつかの地域ではすでに修了していますが、まだ数回残っている地域もありますので、ヒアリング調査の結果から、グループワークのちょっとした工夫を紹介したいと思います。

●講義とグループワークのテーマについて●

①講義テーマ「認知症の基本的理解と予防」(茨城県 介護老人保健施設さくら 様)

グループワークは3グループそれぞれ別の課題を設定し、つながりを持たせています。それぞれから報告を行い、最終的にまとめの講義で予防の話をするという展開です。全体のストーリー性を持たせ飽きのこない方法で多くの学びが得られる工夫された内容だと思っています。

＜グループワークのテーマ＞

テーマ1: 失ってこまることベスト5

テーマ2: 受けたいサービス／援助／介助内容

テーマ3: 長谷川式スケールの実施

②講義テーマ「生活リハビリ」(群馬県 群馬県立高齢者介護総合センター 様)

体操で身体を動かしてから、アイスブレイク、グループワークという展開が非常にスムーズで自然な流れでした。グループワークのテーマは役割をリハビリにそして介護負担感ではなく肯定感を考えてもらうということが、介護者のストレスを軽減させる効果と共に、生活の大切さについての気づきが 得られる内容だったと思います。

＜グループワークのテーマ＞

①自分が過剰に介護してしまっていると感じたことがあるか

②どういう役割なら出来ると思うか？

③介護していて、みつけた喜び・感動は？

●全体の展開についての工夫●

講義テーマ「認知症高齢者を介護する家族のこころ」(山梨県 笛吹市社会福祉協議会 様)

スタッフ間の意思統一が図られ、ファシリテーター、司会者等のチームワークが非常に良かったと感じました。その工夫は下記の通りです。

- ・進行表の留意事項として、「挨拶は明るく」「短く簡単に」終了時は、「感謝のこぼれ」等記載
- ・ファシリテーター(発表者)が、伝えるべき内容をまとめ参加者にもこまめに確認を取る
- ・スタッフの勉強会として位置づけており、職員教育の一環となっている
- ・経験の浅い職員から中堅及びベテランと参加することによる円滑な運営

文献紹介 ～せっかくだから～

今回は矢吹がお薦めする人気コーナーの第2弾です。

松本一生著「家族と学ぶ認知症」金剛出版 2006. 5 (ISBN:4-7724-0909-2)

長年にわたりクリニックで認知症の臨床を積み重ねてきた著者が、認知症と向き合う本人と家族の心を多くの事例を紹介しながらわかりやすく解説されています。特に「第6章 家族への心理教育アプローチと家族教室の持ち方」では、ケアケア交流講座を企画・運営に直接役立つ内容が多く必見です。家族の立場になって展開されており、家族の本質的な悩みや苦悩を理解することができますと思います。せっかくなので是非一読下さい。



ケアケアよくあるQ & A



ケアケア推進室に多く寄せられる質問をまとめてみました。是非今後の参考にしてみてください。

Q：事後アンケートはいつ配布すればいいですか？

A：基本的に、最終回（全6回であれば6回目）に配布して下さい。ただし、最終回に来られない方には、その前の回（その方が参加する最終回）に配布して下さい。（事後アンケートは講座の効果測定を目的に行います。）

※ アンケートについての確認事項 ※

- 初めてケアケア交流講座に参加された方には、全て事前アンケートを配布してください。
- 事後アンケートを回収できない場合・・・1回だけの参加、最終講座に初参加された方など
⇒この場合、事前アンケートのみを配布して下さい（事後アンケートは記入していただきません）。

Q：11月に送付された返送用の封筒に入れなかったアンケートはどうすればいいですか？

A：1月下旬に回収用の封筒を郵送しますので、前回と同じように返送して下さい。それまで、事後・毎回アンケート等の保管をよろしくお願いします。

Q：スタッフアンケートでは、ストレスに関する質問が多くあるようですが…。上の役職の方に見られると本音を書きづらいと思うのですが…。

A：実名を記入していただくようになっているのは、同じ方の事前・事後アンケートを比較することにより、講座の効果を測定するためです。もし、施設側で個人を記号化したいという場合は、事前・事後で記入していただいた方が一致するようにして下さい。アンケートの保管は厳重に行っていただきますようお願いいたします。また、記入していただいた事項に関しては目的以外に使用することがないということを記入者に口頭で説明して下さい。

<お知らせ>

事後アンケート回収は、年明け1月下旬から行いたいと思います。その前に必要な返信用封筒や必要書類など郵送しますので、お忙しい時期だとは思いますが、最終講座が終わり次第アンケートや評価票などの返信をお願いいたします。

☆☆ 編集後記 ☆☆

仙台は肌寒い日が続き、時々雪がちらつくようになりました。風邪を寄せつけないようにはつらつとケアケア交流講座に取り組んでいきましょう。来年もどうぞよろしくお願いいたします。



地域	回数	テーマ

※この欄は記入しないで下さい

アンケートご協力をお願い

この度は、ケアケア交流講座に参加していただきありがとうございました。

今後の講座の参考にさせて頂きたいと思いますのでアンケートのご記入よろしくお願いいたします。

Q1. 開催日 [月 日]

参加者 [1. 介護をされている家族 2. スタッフ 3. 地域住民 4. その他]

性別 [1. 女 2. 男]

年齢 [1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代以上]

Q2. ケアケア交流講座に参加していかがでしたか？

- | | |
|------------------------------|---|
| 1. 今日の内容はわかりやすく理解できた…… | <div> <div>そう思う</div> <div>まあそう思う</div> <div>あまりそう思わない</div> <div>思わない</div> </div> |
| 2. 今日の内容に興味・関心がもてた…… | <div> <div>そう思う</div> <div>まあそう思う</div> <div>あまりそう思わない</div> <div>思わない</div> </div> |
| 3. 今日の内容は期待した通りだった…… | <div> <div>そう思う</div> <div>まあそう思う</div> <div>あまりそう思わない</div> <div>思わない</div> </div> |
| 4. 今日の資料は充分だった…… | <div> <div>そう思う</div> <div>まあそう思う</div> <div>あまりそう思わない</div> <div>思わない</div> </div> |
| 5. ディスカッションなどに充分参加することができた…… | <div> <div>そう思う</div> <div>まあそう思う</div> <div>あまりそう思わない</div> <div>思わない</div> </div> |
| 6. 今日の内容は今後に生かせそうだ…… | <div> <div>そう思う</div> <div>まあそう思う</div> <div>あまりそう思わない</div> <div>思わない</div> </div> |
| 7. 全体的に満足できる内容だった…… | <div> <div>そう思う</div> <div>まあそう思う</div> <div>あまりそう思わない</div> <div>思わない</div> </div> |

Q3. 講座に対するご感想、ご質問などがございましたらご記入下さい。

ケアケア交流講座テキスト評価票（講座担当者用）

ケアケア交流講座の運営ご苦労様です。この評価表はテキストの内容を検討するために使用します。ご多忙とは存じますが、よりよいテキストを作成するためにどうかご協力下さい。

担当者名

回 数	テ ィ マ(サブタイトルも記入して下さい)	参 加 者 数
第 回		家 族 名 スタッフ 名 その他 名
運営者の人数	今回の講師の属性(あてはまる番号を○で囲んで下さい)	
名	1. 自施設・法人の職員 2. 他施設・法人の職員 3. 大学等の教員等 4. その他 () ※「1」の場合はその役職を()内の番号から選択してください (1. 施設長、管理者 2. リーダー、主任 3. ケアワーカー 4. 看護師 5. PT、OT 6. 栄養士 7. その他)	

Q2. 今回使用したテキストの番号に○をつけて下さい。複数使用した場合は主として使ったテキストに◎を、

I. 認知症介護の基本的理解		
1. 高齢者の理解	2. 認知症の医療	3. 認知症の基本的理解と予防
II. 食事		
1. 食事の工夫1	2. 食事の工夫2	3. 認知症高齢者の食事介助の方法
III. 高齢者の暮らしやすい環境		
1. 認知症高齢者の暮らし編	2. 自宅編	3. 地域社会編
IV. 社会資源・環境作り		
1. 介護保険制度の概要と介護支援専門員の役割	2. 介護保険サービス	
3. 地域の社会資源について考えよう		
V. 介護者のストレス軽減		
1. 介護者が抱える負担、ストレスは？	2. どのように考えたらいいか回避の工夫	
3. ストレス軽減のためにできること		
VI. 身体介護・介護技術		
1. 移動の介助について	2. 排泄介助について	3. コミュニケーションが困難な人に対する工夫
VII. 認知症の理解		
1. 認知症高齢者の理解	2. 認知症高齢者の心理と対応	3. 認知症を介護する家族のこころ
VIII. 健康作りと介護予防		
1. 身体機能低下予防	2. 介護者の心も身体も健康に	3. 口腔ケアの必要性

副として使ったテキストの番号すべてに○をつけて下さい。

Q3. 講義部分のテキストの使用方法についてうかがいます。あてはまる番号を○で囲み、「2」「3」「4」「5」の場合は枠内の記入例を参考に記入して下さい。

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. まったくテキスト通りに行った | 2. 1つの項目の内容を一部修正して行った |
| 3. いくつかの項目を統合し内容は変えずに行った | 4. いくつかの項目を統合し内容を修正して行った |
| 5. 全く新しい項目を立ち上げて行った | |

※テキストナンバーはQ2を参考にして下さい。また、統合した場合は主となる項目を記入し、副となる項目は「修正した箇所」に記入して下さい。また、「5」と回答した場合は、テキストナンバーを記入する必要はありません。

テキスト ナンバー	修正した箇所と内容	理 由
VII-1	①認知症の症状の理解に「アルツハイマー型」「脳血管性」の他に「レビー小体性」「前頭側頭型」も入れた。 ②予防の話（I-3）を入れた。	①認知症は、様々な種類があることを理解してもらうため。 ②流れとして予防も入れた方がよかった。

Q4. グループワークの内容およびテキストの活用についてうかがいます。

1. テキスト通りに行った
2. 一部修正して行った
3. 全く新しいテーマを立ち上げて行った
4. その他 ()

※テキスト通りに行った場合も記入して下さい。

グループワークのテーマ	
方法(具体的な展開方法や工夫した点を箇条書きで記入して下さい)	
グループワークの所見(うまくいった事例や失敗した事例などを簡単にご記入下さい)	

Q5. 今回の感想や気づいた点、改善、検討事項、提言などがありましたらご自由に記入して下さい。

ご協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。ご不明な点は下記までご連絡下さい。
認知症介護研究・研修仙台センター ケアケア交流講座推進室 022-277-5030 担当 渡部、千田

No.	施設名	
1	社会福祉法人 幸生会 特別養護老人ホーム 幸豊ハイツ	
延べ参加者数	家族	89人
	スタッフ	80人
テーマ		
1	食事の工夫	4 介護保険サービス その他のサービス
2	認知症の基本的理解と予防	5 身体機能の低下予防
3	認知症高齢者の心理と対応	6 介護者が抱える負担、ストレスとは？

No.	施設名	
2	社会福祉法人 宏友会 特別養護老人ホーム 西野ケアセンター	
延べ参加者数	家族	人
	スタッフ	人
テーマ		
1	健康作りと介護予防	4 介護者のストレス軽減
2	認知症介護の基本的理解	5 認知症の理解
3	身体介助・介護技術	6 社会資源・環境作り

No.	施設名	
3	社会福祉法人 釧路市社会福祉協議会阿寒支所 阿寒町デイサービスセンター	
延べ参加者数	家族	38人
	スタッフ	40人
テーマ		
1	認知症介護の基本的理解 ～認知症の基本的理解と予防～	4 介護者のストレス軽減 ～どのように考えたら良いか、回避する工夫・考え方(コーピング)～
2	認知症の理解 ～認知症高齢者の心理と対応～	5
3	社会資源・環境づくり ～地域の社会資源について考えよう	6

No.	施設名	
4	社会福祉法人 さつき会 特別養護老人ホーム 鷹栖さつき苑	
延べ参加者数	家族	43人
	スタッフ	32人
テーマ		
1	私、ぼけちゃったの？ ～認知症の理解～	4
2	私のこと、どう思ってるの？ ～認知症高齢者の心理と対応～	5
3	私だって、つらいのよ～家族の心～	6

資料7 モデル事業実施テーマ一覧 2

No.		施設名	
5		社会福祉法人 愛生福祉会 特別養護老人ホーム 庄内の里	
延べ参加者数	家族	人	
	スタッフ	人	
テーマ			
1	認知症介護の基本的理解	4	健康作りと介護予防・食事介助について
2	介護者のストレス軽減・介護技術	5	
3	暮らしやすい環境	6	

No.	施設名		
6	社会福祉法人 新川老人福祉会 特別養護老人ホーム 新川ヴィーラ		
延べ参加者数	家族	108人	
	スタッフ	90人	
テーマ			
1	高齢者の食事について	4	認知症高齢者を介護する家族の心
2	移動の介助・排泄の介助について	5	介護者のストレス軽減
3	認知症高齢者の理解と予防	6	

No.		施設名	
7		社会福祉法人 長寿会 長寿園デイサービスセンター	
延べ参加者数	家族	50人	
	スタッフ	20人	
テーマ			
1	認知症の理解	4	社会資源と環境づくり
2	食事の工夫と口腔衛生	5	
3	高齢者の運動機能向上	6	

No.		施設名	
8		社会福祉法人 恵仁福祉協会 特別養護老人ホーム アザレアンさなだ	
延べ参加者数	家族	105人	
	スタッフ	80人	
テーマ			
1	介護者のストレス軽減	4	認知症の理解
2	高齢者の暮らしやすい環境	5	
3	身体介助・介護技術	6	

資料7 モデル事業実施テーマ一覧 3

No.		施設名	
9		社会福祉法人 慈恵会 特別養護老人ホーム 西島寮	
延べ参加者数	家族	59人	
	スタッフ	20人	
テーマ			
1	介護者のストレス軽減	4	高齢者の暮らしやすい環境
2	認知症介護の基本的理解	5	
3	健康作りと介護予防	6	

No.	施設名	
10	社会福祉法人 東北福祉会 特別養護老人ホーム せんだんの里	
延べ参加者数	家族	119人
	スタッフ	162人
テーマ		
1	お助け介護～技術・用具・予防～	4 認知症の理解
2	住み慣れた地域で暮らし続けるためには ～地域資源の具体的な活用方法～	5 認知症の心・家族の心
3	口の中と健康～口腔ケアについて～	6 認知症の予防

No.		施設名	
11		医療福祉法人 豊仁会 サンライフ豊寿苑	
延べ参加者数	家族	141人	
	スタッフ	118人	
テーマ			
1	身体介助・介護技術	4	食事
2	認知症介護の基本的理解	5	認知症の理解
3	健康作りと介護予防	6	介護者のストレス軽減

No.	施設名	
12	財団法人たかのす福祉公社 ケアタウンたかのす	
延べ参加者数	家族	160人
	スタッフ	80人
テーマ		
1	「認知症介護の基本的理解」 認知症の基本的理解と予防	4「高齢者の暮らしやすい環境」 認知症高齢者の暮らし
2	「認知症の理解」認知症を介護する家族のこころ	5「身体介護・介護技術」移動介助について
3	「社会資源・環境づくり」介護保険サービス その他のサービスの利用について	6「健康作りと介護予防」身体機能の低下予防

資料7 モデル事業実施テーマ一覧 4

No.		施設名	
13		社会福祉法人 岩手敬和会 山岸和敬荘	
延べ参加者数	家族	人	
	スタッフ	人	
テーマ			
1	身体介護・介護技術	4	認知症介護の基本的理解
2	健康作りと介護予防	5	
3	認知症の理解	6	

No.	施設名		
14	社会福祉法人 典人会 グループホーム ひまわり		
延べ参加者数	家族	85人	
	スタッフ	130人	
テーマ			
1	介護について語り合おう！！ —苦労したこと・楽しかったこと—	4	見なおそう!!我が家の暮らしやすさ —高齢者の暮らしやすい環境—
2	「介護される」ってどんな気持ち？ —認知症高齢者の心理的理解—	5	予防できるの！？認知症 —認知症にならない取り組みを皆で考えよう—
3	介護秘伝塾 —私のケアのコツ教えます！—	6	「知ってましたか？」介護保険 —あんなサービス・こんなサービス—

No.	施設名	
15	特定医療法人 明智会 介護老人保健施設 ライフケア鶴賀	
延べ参加者数	家族	72人
	スタッフ	66人
テーマ		
1	認知症高齢者の理解	4 排泄介助について
2	認知症の医療	5 認知症高齢者の食事介助方法
3	介護者の抱える負担・ストレスとは！	6 口腔ケアの必要性

No.		施設名	
16		社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会 特別養護老人ホーム ながまち荘	
延べ参加者数	家族	人	
	スタッフ	人	
テーマ			
1	介護保険制度の概要と 介護支援専門員の役割	4	認知症を介護する家族のこころ
2	口腔ケアの必要性	5	認知症の基本的理解と予防
3	認知症の医療	6	

資料7 モデル事業実施テーマ一覧 5

No.	施設名	
17	社会福祉法人 津田福祉会 特別養護老人ホーム さつき荘	
延べ参加者数	家族	37人
	スタッフ	24人
テーマ		
1	認知症の基本的理解と予防	4 認知症を介護する家族のこころ
2	介護者が抱える負担やストレス	5 高齢期の健康保持、口腔ケア
3	食事の工夫(環境面、献立)	6

No.	施設名	
18	社会福祉法人 正吉福祉会 府中市立特別養護老人ホーム よつや苑	
延べ参加者数	家族	43人
	スタッフ	33人
テーマ		
1	介護保険のサービス、 その他のサービス利用について	4 認知症高齢者の理解
2	介護者の心も身体も健康に	5 認知症を介護する家族のこころ
3	身体介助・介護技術	6 口腔ケアの必要性

No.	施設名	
19	医療法人財団 新生会 介護老人ホーム保健施設 高齢者ケアセンター ゆらぎ	
延べ参加者数	家族	87人
	スタッフ	92人
テーマ		
1	高齢者の理解	4 移動の介助について
2	認知症高齢者の理解	5 コミュニケーションが困難な人に対する介護の工夫
3	食事の工夫	6 介護者のストレス軽減

No.	施設名		
20	社会福祉法人 東京弘済園 三鷹市高齢者センター けやき苑		
延べ参加者数	家族	90人	
	スタッフ	37人	
テーマ			
1	排泄について－身体介護のポイント－	4	食事、口腔ケアについて
2	認知症の理解	5	介護者のストレス
3	身体機能の低下予防、役割など	6	

資料7 モデル事業実施テーマ一覧 6

No.	施設名	
21	社会福祉法人 麗寿会 ふれあいの森	
延べ参加者数	家族	32人
	スタッフ	34人
テーマ		
1	認知症高齢者の医学的理解	4 知っておきたいサービス資源・環境づくり
2	認知症高齢者の基本的理解	5
3	知っておきたい健康づくり	6

No.	施設名	
22	社会福祉法人 佐倉厚生会 介護老人福祉施設 さくら苑	
延べ参加者数	家族	30人
	スタッフ	32人
テーマ		
1	健康作りと介護予防	4 食事の工夫
2	認知症の理解	5 介護者のストレス
3	入浴の介助	6

No.	施設名		
23	群馬県 群馬県立高齢者介護総合センター		
延べ参加者数	家族	31人	
	スタッフ	25人	
テーマ			
1	認知症高齢者の理解と対応	4	口腔ケアについて
2	生活リハビリについて	5	
3	食事(栄養)について	6	

No.	施設名		
24	医療法人社団 青洲会 介護老人保健施設 さくら		
延べ参加者数	家族	48人	
	スタッフ	20人	
テーマ			
1	食事「食事の工夫」	4	介護技術「排泄介助」
2	予防介護「身体機能の低下予防」	5	
3	認知症「認知症の基本的理解と予防」	6	

資料7 モデル事業実施テーマ一覧 7

No.	施設名	
25	山梨県笛吹市社会福祉協議会	
延べ参加者数	家族	人
	スタッフ	人
テーマ		
1	介護者のストレス軽減	4
2	認知症の理解 (心理と対応、家族のこころ)	5
3	認知症高齢者の食事介助の方法	6

No.	施設名	
26	社会法人 長岡三古老人福祉会 介護老人福祉施設 横山けやき苑	
延べ参加者数	家族	98人
	スタッフ	70人
テーマ		
1	健康作りと介護予防(口腔ケアの必要性)	4 社会資源・環境づくり(介護保険制度)
2	介護を知ろう～食事～	5 介護を知ろう～身体介助・コミュニケーション～
3	認知症介護の基本的理解 (認知症の医療、認知症の基本的理解と予防)	6

No.	施設名	
27	社会福祉法人 聖徳会 大阪老人ホーム	
延べ参加者数	家族	79人
	スタッフ	19人
テーマ		
1	健康作りと介護予防	4 介護者のストレス軽減
2	身体介助・介護技術	5 認知症介護の基本的理解
3	食事	6 認知症の理解

No.	施設名	
28	社会福祉法人 門真晋栄福祉会 グループホーム 宝塚ちどり	
延べ参加者数	家族	人
	スタッフ	人
テーマ		
1	認知症の基本的理解と予防	4
2	介護保険サービス、 その他のサービス利用について	5
3	ストレス軽減のためにできること	6

資料7 モデル事業実施テーマ一覧 8

No.		施設名	
29		社会福祉法人 清和園 吉祥ホーム	
延べ参加者数	家族	62人	
	スタッフ	37人	
テーマ			
1	健康作りと介護予防	4	
2	社会資源・環境作り	5	
3	認知症介護の基本的理解	6	

No.		施設名	
30		社会福祉法人 高陽会 特別養護老人ホーム 高陽園	
延べ参加者数	家族	人	
	スタッフ	人	
テーマ			
1	認知症の理解	4	
2	介護者のストレス軽減	5	
3	健康づくりと介護予防	6	

No.	施設名		
31	社会福祉法人 やすらぎ会 特別養護老人ホーム やすらぎ園		
延べ参加者数	家族	43人	
	スタッフ	45人	
テーマ			
1	認知症介護の基本的理解	4	
2	身体介助・介護技術	5	
3	健康作りと介護予防	6	

No.	施設名		
32	社会福祉法人 近江和順会 特別養護老人ホーム 美松苑		
延べ参加者数	家族	13人	
	スタッフ	33人	
テーマ			
1	介護者のストレス軽減	4	
2	身体介助・介護技術	5	
3	認知症の理解	6	

資料7 モデル事業実施テーマ一覧 9

No.	施設名	
33	有限会社 イトファーマシー デイハウス沙羅	
延べ参加者数	家族	18人
	スタッフ	57人
テーマ		
1	認知症高齢者の心理と対応	4 ストレス軽減のためにできること
2	認知症高齢者の食事介助の方法	5 認知症高齢者の暮らし編
3	認知症の医療	6

No.	施設名	
34	社会福祉法人 岐協福祉会 特別養護老人ホーム大洞岐協苑	
延べ参加者数	家族	80人
	スタッフ	69人
テーマ		
1	食事の工夫	4
2	認知症を介護する家族のこころ	5
3	身体機能の低下予防	6

No.	施設名	
35	財団法人 松原病院 福井中央北包括支援センター	
延べ参加者数	家族	80人
	スタッフ	17人
テーマ		
1	高齢者の理解・ 認知症高齢者の理解・介護予防	4
2	認知症高齢者を抱える家族の思い (介護者から)認知症ケアについて	5
3		6

No.	施設名	
36	社会福祉法人 玉美福祉会 特別養護老人ホーム 向日葵	
延べ参加者数	家族	130人
	スタッフ	45人
テーマ		
1	認知症の基本的理解と予防	4 介護者が抱える負担、ストレスとは？
2	食事の工夫	5
3	口腔ケアの必要性	6

資料7 モデル事業実施テーマ一覧 10

No.		施設名	
37		医療法人社団 常仁会 介護老人保健施設 サンスクエア沼南	
延べ参加者数	家族	50人	
	スタッフ	62人	
テーマ			
1	「みんなで学ぼう！介護保険」	4	「みんなで話そう！ストレス発散」
2	「みんなでやってみよう！介護技術」	5	
3	「みんなで知ろう！認知症の基本」	6	

No.	施設名	
38	医療法人 紀典会 老人保健施設 エスペランスわけ	
延べ参加者数	家族	62人
	スタッフ	40人
テーマ		
1	介護者のストレス	4 介護者の健康
2	介護者の3大ストレスにまつわる介護	5
3	認知症の理解・認知症高齢者 を持つ家族の気持ち	6

No.		施設名	
39		医療法人社団 もりもと 森本外科・脳神経外科医院	
延べ参加者数	家族	42人	
	スタッフ	51人	
テーマ			
1	認知症高齢者の理解	4	移動の介助について
2	介護者が抱える負担、ストレスとは？	5	
3	食事の工夫	6	

No.		施設名	
40		医療法人 昌林会 介護老人保健施設 青海荘	
延べ参加者数	家族	45人	
	スタッフ	85人	
テーマ			
1	認知症の基本的理解と予防	4	
2	ストレス軽減のためにできること	5	
3	身体機能の低下予防	6	

資料7 モデル事業実施テーマ一覧 11

No.	施設名	
41	社会福祉法人 松山紅梅会 梅本の里	
延べ参加者数	家族	93人
	スタッフ	83人
テーマ		
1	一緒に考えてみませんか？ ―食事の工夫―(食事の工夫1)	4
2	共に理解してみませんか？ 認知症って何？(認知症高齢者の理解)	5
3	腰を痛めない介護の仕方 ―ボディメカにクスに添って―	6
4	わかり合って‘トク’する―介護者のストレス軽減― (どのように考えたらよいのか、回避する工夫、考え方(コーピング))	

No.	施設名	
42	医療法人社団 功寿会 老人保健 千手苑	
延べ参加者数	家族	81人
	スタッフ	70人
テーマ		
1	体験しよう！「介護技術のポイント」	4
2	挑戦しよう！見て味わう「季節の食事」	5
3	学ぼう！「口腔ケアの大切さ」	6
4	感じてみよう！「認知症ってなあに？」	
5	リフレッシュしよう！「いきいき3とき運動」	

No.	施設名	
43	医療法人 地塩会 介護老人保健施設 夢の里	
延べ参加者数	家族	44人
	スタッフ	74人
テーマ		
1	認知症の基本的理解と予防	4
2	認知症高齢者の心理と対応	5
3	身体機能の低下予防	6
4	口腔ケアの必要性	

No.	施設名	
44	医療法人 有誠会 老人保健施設 喜久寿苑	
延べ参加者数	家族	40人
	スタッフ	50人
テーマ		
1	高齢者の福祉用具と住宅改修	4
2	認知症高齢者の心理と対応	5
3	認知症の基本的理解と予防	6

資料7 モデル事業実施テーマ一覧 12

No.	施設名		
45	医療法人 みやうち 介護老人保健施設 ひまわり		
延べ参加者数	家族	51人	
	スタッフ	73人	
テーマ			
1	認知症の理解 ～認知症を介護する家族のころ～	4	社会資源・環境づくり ～地域社会資源について考えよう～
2	食事 ～認知症高齢者の食事介助の方法～	5	
3	介護者のストレス軽減 ～ストレス軽減のためにできること～	6	

No.	施設名		
46	社会福祉法人 同心会 特別養護老人ホーム しおさい		
延べ参加者数	家族	127人	
	スタッフ	44人	
テーマ			
1	認知症介護の基本的理解 認知症の基本的理解と予防	4	食事 認知症高齢者の食事の介助の方法
2	食事 食事の工夫	5	
3	健康作りと介護予防 身体機能の低下予防	6	

No.		施設名	
47		社会福祉法人 初栄会 高齢者総合福祉施設 せいらくえん	
延べ参加者数	家族	45人	
	スタッフ	70人	
テーマ			
1	介護者が抱える負担・ストレスとは？ ～話すことが第一歩～	4	認知症高齢者の食事介助の方法 ～食べる喜びを感じて～
2	認知症高齢者の理解 ～認知症ってなんだろう～	5	排泄介助について～人間らしく、気持ちよく～
3	食事の工夫～おいしく食べるために～	6	認知症を介護する家族のころ ～こころの和・つながり～

No.	施設名	
48	社会福祉法人 ふるさと 特別養護老人ホーム ふるさと	
延べ参加者数	家族	人
	スタッフ	人
テーマ		
1	高齢者の理解	4 認知症を介護する家族のころ
2	認知症の医療	5
3	認知症の基本的理解予防	6

資料7 モデル事業実施テーマ一覧 13

No.		施設名	
49		医療法人財団 友朋会 老人保健施設 朋寿苑	
延べ参加者数	家族	55人	
	スタッフ	60人	
テーマ			
1	出会い(高齢者の理解)	4	地域の中で(認知症高齢者の食事介助の方法)
2	ふれあい(認知症の医療)	5	チームの輪(移動の介助について)
3	信じあい(認知症の基本的理解と予防)	6	

No.	施設名		
50	社会福祉法人 天龍会 特別養護老人ホーム すずらの里		
延べ参加者数	家族	44人	
	スタッフ	52人	
テーマ			
1	認知症の基本的理解と予防	4	排泄介助について
2	ストレス軽減のためにできること	5	介護保険サービス、その他のサービス利用について
3	認知症高齢者の食事介助の方法	6	地域の社会資源について考えよう

No.		施設名	
51		社会福祉法人 日向厚生センター 介護老人福祉施設 皇寿園	
延べ参加者数	家族	87人	
	スタッフ	98人	
テーマ			
1	「わかってください。わたしの心」 ～認知症高齢者の心理と対応～	4	「食べる楽しみをいつまでも」～食事の工夫～
2	「疲れていませんか。あなたの心」 ～介護者が抱える負担やストレス～	5	「スッキリさわやかに過ごすために」 ～排泄介助について～
3	「できることを見つけてみませんか」 ～身体機能の低下予防～	6	

No.	施設名		
52	社会福祉法人 輪光福祉会 特別養護老人ホーム 輪光無量寿園		
延べ参加者数	家族	52人	
	スタッフ	60人	
テーマ			
1	認知症介護の基本的理解	4	高齢者の暮らしやすい環境
2	食事	5	
3	認知症の理解	6	

No.		施設名	
53		社会福祉法人 高洋会 特別養護老人ホーム 陽明園	
延べ参加者数	家族	30人	
	スタッフ	60人	
テーマ			
1	めんそーれ～認知症を受け入れよう～	4	
2	健康作りと介護予防	5	
3	身体介助・介護技術	6	

No.	施設名	
54	社会福祉法人 穂燈舎 特別養護老人ホーム 百華苑	
延べ参加者数	家族	人
	スタッフ	人
テーマ		
1	認知症の基本的理解と予防	4 介護者が抱える負担・ストレスとは？
2	認知症高齢者の食事介助の方法	5 口腔ケアの必要性
3	高齢者の暮らしやすい環境	6

No.	施設名		
55	社会福祉法人 山田福祉会 特別養護老人ホーム たちばな苑		
延べ参加者数	家族	61人	
	スタッフ	92人	
テーマ			
1	介護者が抱える負担、ストレスとは？	4	認知症高齢者の暮らし
2	ストレス軽減のためにできること	5	認知症を介護する家族のこころ
3	認知症高齢者の心理と対応	6	介護者の心も身体も健康に

介護家族の教育支援プログラム開発事業

〔ケアケア交流講座〕時事業実施アンケート（最終版）

みなさまのご協力により全国56カ所で実施したモデル事業のほとんどが終了致しました。各地のご家族、事業所さまより大変ご好評をいただいております。現在、テキストの改訂作業をおこなっており、4月はじめには皆様の元に改訂版のテキストを発送する予定です。

そこで、来年度最終年度に向け、より効果的な講座を継続的に運営するために、実施担当者の方に事業評価をして頂きたいお願い致します。

年度末のご多忙と存じますが、ご協力よろしくお願い致します。

まず、今年度の講座の実施回数と実施した時間帯をご記入下さい。時間帯が異なる場合は2つまでご記入下さい。延べ人数の正確な数字が分からない場合は約で結構です。（必ず記入してください）

今年度実施回数	講座参加延べ人数	家族	名	実施時間	①AM・PM	:	~	:
		スタッフ	名		②AM・PM	:	~	:

I. 準備の工夫について

1. 家族の参加者募集方法について伺います。募集方法で工夫したことや、困難だったことがあれば教えてください。

困難(失敗)

工夫

2. 施設職員の参加をしやすいするために工夫したことや、困難だったことがあれば教えてください。

困難(失敗)

工夫

3. 講座実施までの打合せ(方法・講師選定等)や役割分担(担当決め等)での工夫したことや困難だったことがあれば教えて下さい。

困難

工夫

Ⅱ. 講座の工夫について

1. 講座の雰囲気作りや会場設営(選定)での工夫したことや、困難だったことを教えて下さい。

困難

工夫

2. 講座の受け付けや誘導での工夫したことや、困難だったことについて教えて下さい。

困難

工夫

3. 講座中のグループワークで工夫しうまくいった事例、困難だった事例を教えてください。困難だった事例については対処方法があれば教えてください。

うまくいった事例

困難だった事例(その対処法)例:参加者が泣き出してしまった。グループがまとまらない

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。より使いやすく、活用しやすいテキストを作成していきたいと思います。

締め切り 平成19年 3月17日(金)です。

メールもしくは、郵送で返信お願い致します。

ご不明の点があれば下記までご連絡ください。

資料9 ヒアリング調査票

介護家族と施設職員の相互参加による教育的支援プログラムの開発事業 記録票

■全体の概要

地域	調査施設名	調査担当者		担当者施設名
講座実施施設名		実施会場の概要（大きさ、通常用途、備品など）		
担当施設スタッフの人数と役職などの構成				
講師				
ファシリテーター				
スタッフ				

■参加者

家 族		スタッフ	その他
人 数	名	名	名
雰 囲 気			

■内容について

講座テーマ	
今回の目的 (講師の目的の提示から)	
特徴 (講座の会場による特色 や特徴、工夫など)	

■講義の流れ

時間	内容とメンバーの様子 (家族やスタッフの雰囲気、表情、会話、関係性など)	使用物品

■グループワーク

グループワークのテーマ	
グループワークの方法	
グループワークの様子 (家族・スタッフの様子、 評価など)	
報告やまとめの内容	

■ 全体について

課題と感じた場面を記載して下さい

(例：意識の違いがありすぎて理解に差があった
一人が話しすぎてディスカッションにならない
怒り出して帰ってしまった
緊張がほぐれない
スタッフがいらない

これは良いと思った場面や工夫について書いて下さい

資料10 ヒアリング調査実施者および実施施設一覧

担当施設 社会福祉法人 幸清会 特別養護老人ホーム 幸豊ハイツ			
No.	施設名	ヒアリング日程	調査実施者数
1	社会福祉法人 宏友会 特別養護老人ホーム 西野ケアセンター	平成18年9月21日	2
2	社会福祉法人 釧路市社会福祉協議会阿寒支所 阿寒町デイサービスセンター	平成18年11月10日	2
3	社会福祉法人 さつき会 特別養護老人ホーム 鷹栖さつき苑	平成18年12月6日	2
4	社会福祉法人 愛生福祉会 特別養護老人ホーム 庄内の里	平成18年11月24日	2
5	社会福祉法人 新川老人福祉会 特別養護老人ホーム 新川ヴィーラ	平成18年11月15日	2
6	社会福祉法人 長寿会 長寿園デイサービスセンター	平成18年12月16日	2
7	社会福祉法人 恵仁福祉協会 特別養護老人ホーム アザレアンさなだ	平成18年12月9日	2
8	社会福祉法人 慈恵会 特別養護老人ホーム 西島寮	平成18年11月29日	2

担当施設 社会福祉法人 東北福祉会 特別養護老人ホーム せんだんの里			
No.	施設名	ヒアリング日程	調査実施者数
9	医療法人社団 豊仁会 サンライフ豊寿苑	平成18年11月15日	2
10	財団法人たかのす福祉公社 ケアタウンたかのす	平成18年11月17日	2
11	社会福祉法人 岩手和敬会 山岸和敬荘	平成19年2月8日	2
12	社会福祉法人 典人会 グループホーム ひまわり	平成18年12月17日	2
13	特定医療法人 明智会 介護老人保健施設 ライフケア鶴賀	平成18年12月9日	2
14	社会福祉法人 恩賜財団済生会支部山形県済生会 特別養護老人ホーム ながまち荘	平成19年1月14日	2
15	社会福祉法人 津田福祉会 特別養護老人ホーム さつき荘	平成19年2月6日	2

担当施設 社会福祉法人 正吉福祉会 府中市立特養護老人ホーム よつや苑			
No.	施設名	ヒアリング日程	調査実施者数
16	医療法人財団 新生会 介護老人保健施設 高齢者センター ゆらぎ	平成19年1月27日	1
17	社会福祉法人 東京弘済園 三鷹市高齢者センター けやき苑	平成19年2月10日	1
18	社会福祉法人 麗寿会 ふれあいの森	平成18年12月10日	2
19	社会福祉法人 佐倉厚生会 介護老人福祉施設 さくら苑	平成18年12月13日	1
20	群馬県立高齢者介護総合センター	平成18年11月25日	1
21	医療法人社団 青洲会 介護老人保健施設 さくら	平成18年11月11日	2
22	山梨県笛吹市社会福祉協議会	平成18年11月15日	2
23	社会福祉法人 長岡三古老人福祉会 介護老人福祉施設 横山 けやき苑	平成18年12月22日	1

担当施設 社会福祉法人 聖徳会 大阪老人ホーム			
No.	施設名	ヒアリング日程	調査実施者数
24	社会福祉法人 門真晋栄福祉会 グループホーム 宝塚ちどり	平成19年1月21日	2
25	社会福祉法人 清和園 吉祥ホーム	平成19年1月17日	2
26	社会福祉法人 高陽会 特別養護老人ホーム 高陽園	平成19年1月28日	2
27	社会福祉法人 やすらぎ会 特別養護老人ホーム やすらぎ園	平成19年1月20日	2
28	社会福祉法人 近江和順会 特別養護老人ホーム 美松苑	平成18年10月28日	2
29	有限会社 イトーファーマシー デイハウス沙羅	平成18年12月16日	2
30	社会福祉法人 岐協福祉会 特別養護老人ホーム 大同岐協苑	平成18年11月25日	2
31	財団法人 松原病院 福井中央北包括支援センター	平成19年2月20日	1
32	社会福祉法人 玉美福祉会 高齢者ケアセンター 向日葵	平成19年1月13日	2

担当施設 医療法人社団 常仁会 介護老人保健施設 サンスクエア沼南			
No.	施設名	ヒアリング日程	調査実施者数
33	医療法人 紀典会 老人保健施設 エスペランスわけ	平成18年12月2日	2
34	医療法人社団 もりもと 森本外科・脳神経外科医院	平成18年11月30日	2
35	医療法人 昌林会 介護老人保健施設 昌寿苑	平成19年3月3日	1
36	医療法人社団 青寿会 介護老人保健施設 青海荘	平成18年11月18日	2
37	社会福祉法人 松山紅梅会 梅本の里	平成18年12月16日	2
38	医療法人社団 功寿会 老人保健施設 千手苑	平成18年12月6日	2
39	医療法人 地塩会 介護老人保健施設 夢の里	平成19年1月13日	2
40	医療法人 有誠会 老人保健施設 喜久寿苑	平成18年12月15日	2
41	医療法人 みやうち 介護老人保健施設 ひまわり	平成19年2月10日	2

担当施設 社会福祉法人 同心会 特別養護老人ホーム 緑の園			
No.	施設名	ヒアリング日程	調査実施者数
42	社会福祉法人 同心会 特別養護老人ホーム しおさい	平成18年11月10日	2
43	社会福祉法人 初栄会 高齢者総合福祉施設 せいらくえん	平成18年11月7日	2
44	社会福祉法人 ふるさと 特別養護老人ホーム ふるさと	平成18年12月22日	2
45	医療法人財団 友朋会 老人保健施設 朋寿苑	平成18年11月26日	2
46	社会福祉法人 天龍会 特別養護老人ホーム すずらの里	平成18年12月16日	2
47	社会福祉法人 日向厚生センター 介護老人福祉施設 皇寿園	平成18年10月28日	2
48	社会福祉法人 輪光福祉会 特別養護老人ホーム 輪光無量寿園	平成18年12月23日	2
50	社会福祉法人 高洋会 特別養護老人ホーム 陽明園	平成18年11月24日	2
51	社会福祉法人 穂燈舎 特別養護老人ホーム 百華苑	平成18年11月22日	2
52	社会福祉法人 山田福祉会 特別養護老人ホーム たちばな苑	平成18年11月21日	2

ケアケア交流講座

アンケートご協力をお願い（ご家族向け）

本アンケートは、参加されたみなさんの声をお聞きし、講座の効果を知ること目的としたアンケートです。また、全国55カ所でも同じ内容のアンケートを実施します。

ご記入頂いた内容は、個人が特定できないよう数値化し、目的以外には一切使用致しませんのでご安心してご記入下さい。

まず、お名前を伺います。



お名前	在宅で介護をしていますか
	1. はい 2. いいえ 3. 以前していた

（認知症介護研究・研修仙台センターが数値化して管理致します：管理責任者 矢吹知之）

Q 1. あなたご自身や介護を受けている方のことについてうかがいます。

F 1. あなたの性別	F 2. あなたの年齢	F 3. 在宅での介護期間
女 ・ 男	歳	約 年 ヶ月
F 4. 要介護者の性別	F 5. 要介護者の年齢	F 6. 要介護者とあなたの関係
女 ・ 男	歳	(例：配偶者、きょうだい、親等)
F 6. 利用しているサービス		
1. デイサービス 2. デイケア 3. ショートステイ 4. ホームヘルパー 5. 訪問看護 6. 訪問リハビリ 7. 入所（長期） 8. 現在は利用なし		
F 7. 現在利用しているサービスの満足度についてうかがいます。あてはまる番号を○で囲んで下さい。		
1. 満足している 2. どちらかと言えば満足 3. どちらかと言えば不満 4. 不満である		
F 8. 介護を受けている方の日常生活動作についてうかがいます。あてはまる番号1つを○で囲んで下さい。		
1. 非常に活発（自立している） 2. 自立しているが日常生活を送ることが困難になり始めている（歩行困難、トイレなどで後始末不十分） 3. 日常生活に軽度の介助や見守りが必要（杖歩行、ポータブルトイレ、しびん等使用） 4. 日常生活に部分介助が必要（脱衣不自由、食事部分介助、時々失禁） 5. 全面的に介助が必要（寝たきり、食事全面介助、おむつ等使用）		
F 7. 介護を受けている方の認知症についてうかがいます。あてはまる番号1つを○で囲んで下さい。		
1. 認知症なし 2. 軽度（最近の出来事をしばしば忘れる、年月日が不正確、趣味や注意力が減退） 3. 中等度（最近の記憶が困難、場所、人物が不正確、しばしば失禁） 4. 重度（新しい記憶は全く記憶できない、年月日、時間、人、物すべてわからない、会話困難）		

Q2. これまでの介護教室や講座についてうかがいます。

1) これまで、行政や他の事業所なども含め介護講座に参加したことがありますか？

1. 頻繁にある (約 _____ 回位) 2. 頻繁ではないが数回ある (約 _____ 回位)
3. あまり参加したことがない 4. ほとんど参加したことがない

2) 具体的にどんな内容の講座ですか？（複数回答可）

1. 介護技術 2. 介護保険 3. 認知症 4. 医療 5. 介護用品 6. 健康
7. ストレス 8. その他（ ）

Q3. 利用している施設についてうかがいます。それぞれの質問についてあてはまる番号を○で囲んで下さい。

1) 利用している施設の職員とコミュニケーション（会話など）は充分にとれていると思いますか？

1. 充分取れている 2. 充分ではないがとれている 3. あまりとれていない 4. ほとんどとれていない

2) 利用している施設の職員で在宅介護のことで相談できる職員はいますか？

1. 大勢いる 2. 数人いる 3. ほとんどいない 4. まったくいない

3) 利用している施設の職員と在宅介護のことについて相談したいと思いますか？

1. 相談したい 2. どちらかといえば相談したい 3. どちらかといえば相談したくない
4. 相談したくない

4) どのようなことについて相談をしたいと思っていますか？簡単にご記入下さい。

5) 施設サービスを利用している他の家族と介護について話をしたいと思いますか？

1. 非常にそう思う 2. すこしそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

6) 施設のサービスを利用されている他の家族と話をしたりすることはありますか？

1. 時間をとって良く話をする 2. 顔を合わせれば話をする 3. あいさつ程度
4. あまり会う機会、話す機会がない 5. 話をする事がない

Q4. 各質問について今の気持ちに最もあてはまると思う番号を○で囲んで下さい。

	いつも思う	よく思う	時々思う	たまに思う	思わない
1 介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうと思うことがありますか	0	1	2	3	4
2 介護を受けている方のそばにいと腹が立つことがありますか	0	1	2	3	4
3 介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	0	1	2	3	4
4 介護を受けている方のそばにいと、気が休まらないと思いますか	0	1	2	3	4
5 介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことはありますか	0	1	2	3	4
6 介護を受けている方が家にいるので、友達を家に呼びたくても呼べないと思ったことがありますか	0	1	2	3	4
7 介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか	0	1	2	3	4
8 介護を受けている方に対して、どうしていいか判らないと思うことはありますか	0	1	2	3	4

Q5. 各質問について今の気持ちに最も近いと思う番号を○で囲んでください。

	全くそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	非常にそう思う
1 介護を義務からではなく望んでいる	1	2	3	4
2 介護をするのが楽しいと感じる	1	2	3	4
3 介護をするのが自分の生きがいになっている	1	2	3	4
4 介護をすることによって満足感が得られる	1	2	3	4
5 介護をすることによって相手と親密になったように感じる	1	2	3	4
6 介護のおかげで人間的に成長したと思う	1	2	3	4
7 介護をすることで学ぶことがたくさんある	1	2	3	4
8 介護をすることは、自分の老後のためになると思う	1	2	3	4
9 介護のおかげで難しい状況に対処する力など自信がついた	1	2	3	4
10 介護を必要としている人が喜ぶのをみてうれしくなる	1	2	3	4
11 相手が介護に感謝したり、喜んでいと感じる	1	2	3	4
12 介護をしていて、逆に自分が元気づけられたり励まされたりする	1	2	3	4

後もう少しです。ご協力お願いします。→裏面にお進み下さい→

Q6. 現在の介護の状況の方法や考え方の記述があります。あなたの介護場面を思い出して最も現状に近いと思われる番号を○で囲んで下さい。

(その人は、あなたが介護をしている人のことを指しています)

	できない	どちらかといえ ばできない	どちらかといえ ばできる	できる
1 認知症などによる言動の原因を本人の状態や情報から理解する事ができる	1	2	3	4
2 その人の環境への適応を促進するための取り組みが出来る	1	2	3	4
3 その人の環境の変化の影響を予測することができる	1	2	3	4
4 その人の言動の意味を共感して読み取ることが出来る	1	2	3	4
5 これまでの生活をなるべく変えないように環境を調整できる	1	2	3	4
6 現在の認知症の状態や身体状況を把握することができる	1	2	3	4
7 突然の心理的な変化を察知して対応を選択する事ができる	1	2	3	4
8 その人の適当な役割を提供したり一緒に行ったりできる	1	2	3	4
9 認知症のことで困ったとき医学的、心理的情報を集めることができる	1	2	3	4
10 その人が出来る事を推測する事ができる	1	2	3	4
11 その人の過去の経験を整理し、出来る事を選択する事ができる	1	2	3	4
12 1日や1週間のサイクルを考え、生活の支援をする事ができる	1	2	3	4
13 その人の不安や不快を察知し介護方法を選択できる	1	2	3	4
14 その人の介護に必要な用具を判断し適切に準備することができる	1	2	3	4
15 訴えを受け入れる事ができる	1	2	3	4
16 その人の現状と感情が一致しないときを知っている	1	2	3	4
17 突然の訴えや要望も躊躇（ちゅうちょ）せずに対応する事ができる	1	2	3	4
18 様々な言動からお年寄りの過去の生活のペースや生活習慣を読み取ることができる	1	2	3	4
19 その人がもつ多くの問題の中から最も優先すべき問題を選択できる	1	2	3	4

お忙しいところご協力誠にありがとうございました。
ケアケア交流講座にも是非継続的にご参加下さい。

責任者

認知症介護研究・研修仙台センター

研修研究員 矢吹知之

ケアケア交流講座

アンケートご協力をお願い（スタッフ向け）

本アンケートは、ケアケア交流講座（社会福祉医療事業団助成事業）を、介護負担の軽減や施設サービスの質の向上に向けたものとするために、参加されたみなさんの声をお聞きすることを目的としたアンケートです。また、全国55カ所でも同じ内容のアンケートを実施します。

ご記入頂いた内容は、個人が特定できないよう数値化し、目的以外には一切使用致しませんのでご安心してご記入下さい。

Q1. あなたご自身のことについてうかがいます。

性 別	年 齢	高齢者施設総勤務年数	
女 ・ 男	歳	約	年 ヶ月
F1. 現在の職種（あてはまる番号1つを○で囲んで下さい。）			
1.（長期入所）ケアワーカー 2. デイサービス 3. ショートステイ 4. ケアマネージャー 5. PT・OT 6. ホームヘルパー 7. 看護師 8. その他（ ）			
F2. 職種	1. リーダー 2. ワーカー 3. 看護師 4. PT, OT 5. 管理者 6. ホームヘルパー 7. その他		
F3. 資格	1. 社会福祉士 2. 介護福祉士 3. ホームヘルパー 4. ケアマネージャー 5. PT 6. OT 7. ST 8. 介護福祉士 9. その他（ ）		
F4. 最終学歴	1. 福祉系専門学校 2. その他専門学校 3. 福祉系大学 4. その他大学 5. 大学院 6. その他	F5. 今回の参加形態	1. 講座の参加者 2. 講座の企画・運営者

● まず、お名前をご記入下さい。

お名前

（認知症介護研究・研修仙台センターが数値化して管理致します。管理責任者：矢吹知之）

Q2. 家族やスタッフ間のコミュニケーションについてうかがいます。あてはまる番号を○で囲んで下さい。

1) 施設のサービスを利用されているご家族と話をする機会はどの程度ありますか？

1. 充分にある 2. 充分ではないがある 3. 話す機会は少ない 4. 話す機会はほとんどない
- ★★「1」「2」に○をつけた方にうかがいます。★★

どのような場面でどのような話が多いですか？枠内に簡単にご記入下さい。

場面	
内容	

2) 家族と介護に関する話をしたり、情報交換の必要性を感じることはありますか？

1. 必要性を感じる 2. 少し必要性を感じる 3. あまり必要性は感じない 4. 必要だと感じない

3) 同じ職場のスタッフと介護について話し合いをする機会は充分ですか？

1. 充分にある 2. 充分ではないがある 3. 話し合いの機会は少ない
4. 話し合いの機会はほとんどない

Q3. 職場のストレスについてうかがいます。ここ一ヶ月間を振り返ってその頻度を考えて、最もあてはまる番号を○で囲んで下さい。

1) 介護をする上で精神的な負担を感じることはありましたか？

1. よくあった 2. たまにあった 3. あまりなかった 4. なかった

2) 利用者との関係やコミュニケーションで精神的な負担を感じることはありましたか？

1. よくあった 2. たまにあった 3. あまりなかった 4. なかった

3) 上司との関係で精神的負担を感じることはありましたか？

1. よくあった 2. たまにあった 3. あまりなかった 4. なかった

4) 同僚との関係で精神的な負担を感じることはありましたか？

1. よくあった 2. たまにあった 3. あまりなかった 4. なかった

5) 勤務時間や休みについて精神的な負担を感じることがありましたか？

1. よくあった 2. たまにあった 3. あまりなかった 4. なかった

Q 4. 現在の介護の状況の方法や考え方の記述があります。あなたの日常の介護場面を想定して最も現状に近いと思われる数字を一つ選び○で囲んで下さい。
(その人とは、あなたが介護をしている人のことを指します)

	できない	どちらかといえ ばできない	どちらかといえ ばできる	できる
1 認知症などによる言動の原因を本人の状態や情報から理解する事ができる	1	2	3	4
2 その人の環境への適応を促進するための取り組みが出来る	1	2	3	4
3 その人の環境の変化の影響を予測することができる	1	2	3	4
4 その人の言動の意味を共感して読み取ることが出来る	1	2	3	4
5 これまでの生活をなるべく変えないように環境を調整できる	1	2	3	4
6 現在の認知症の状態や身体状況を把握することができる	1	2	3	4
7 突然の心理的な変化を察知して対応を選択する事ができる	1	2	3	4
8 その人の適当な役割を提供したり一緒にいたりできる	1	2	3	4
9 認知症のことで困ったとき医学的、心理的情報を集めることができる	1	2	3	4
10 その人が出来る事を推測する事ができる	1	2	3	4
11 その人の過去の経験を整理し、出来る事を選択する事ができる	1	2	3	4
12 1日や1週間のサイクルを考え、生活の支援をする事ができる	1	2	3	4
13 その人の不安や不快を察知し介護方法を選択できる	1	2	3	4
14 その人の介護に必要な用具を判断し適切に準備することができる	1	2	3	4
15 訴えを受け入れる事ができる	1	2	3	4
16 その人の現状と感情が一致しないときを知っている	1	2	3	4
17 突然の訴えや要望も躊躇（ちゅうちょ）せずに対応する事ができる	1	2	3	4
18 様々な言動からお年寄りの過去の生活のペースや生活習慣を読み取ることができる	1	2	3	4
19 その人がもつ多くの問題の中から最も優先すべき問題を選択できる	1	2	3	4

後もう少しです。ご協力お願いします
→裏面にお進み下さい→

Q5. あなたは、最近、次のようなことをどの程度経験しましたか。あてはまると思う番号に○印をつけてください。

	いつもある 5	しばしばある 4	時々ある 3	まれにある 2	ない 1
1	こんな仕事もうやめたいと思うことがある				5－4－3－2－1
2	我を忘れるほど仕事に熱中することがある				5－4－3－2－1
3	こまごまと心配りすることが面倒に感じることもある				5－4－3－2－1
4	この仕事は私の性分に合っていると思うことがある				5－4－3－2－1
5	同僚や利用者の顔を見るのも嫌になることがある				5－4－3－2－1
6	自分の仕事がつまらなく思えて仕方のないことがある				5－4－3－2－1
7	一日の仕事が終わると「やっと終わった」と感じることもある				5－4－3－2－1
8	出勤前、職場に出るのが嫌になって、家にいたいと思うことがある				5－4－3－2－1
9	仕事を終えて今日は気持ちの良い日だと思うことがある				5－4－3－2－1
10	同僚や利用者と、何も話したくなくなることもある				5－4－3－2－1
11	仕事の結果はどうでもよいと思うことがある				5－4－3－2－1
12	仕事のために心にゆとりがなくなったとを感じることもある				5－4－3－2－1
13	今の仕事に心から喜びを感じることもある				5－4－3－2－1
14	今の仕事は、私にとってあまり意味がないことだと思うことがある				5－4－3－2－1
15	仕事が楽しくて、知らないうちに時間が過ぎることがある				5－4－3－2－1
16	体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある				5－4－3－2－1
17	我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある				5－4－3－2－1

お忙しいところご協力誠にありがとうございました。
ケアケア交流講座に継続的にご参加下さい。

責任者

認知症介護研究・研修仙台センター 研修研究員 矢吹知之

連絡先 仙台市青葉区国見ヶ丘6－149－1 022－303－7565

【個人情報責任者のみが厳重に取り扱いいたします】

ケアケア交流講座

事後

アンケートご協力をお願い（ご家族・一般向け）

本アンケートは、参加されたみなさんの声をお聞きし、講座の効果を知ること目的としたアンケートです。また、全国55カ所でも同じ内容のアンケートを実施します。

ご記入頂いた内容は、個人が特定できないよう数値化し、目的以外には一切使用致しませんのでご安心してご記入下さい。

まず、お名前を伺います。



お名前	在宅で介護をしていますか
	1. はい 2. いいえ 3. 以前していた

（認知症介護研究・研修仙台センターが数値化して管理致します：管理責任者矢吹知之）

Q1. あなたご自身や介護を受けている方のことについてうかがいます。

F1. あなたの性別	F2. あなたの年齢	F3. 在宅での介護期間
女 ・ 男	歳	約 年 ヶ月
F4. 要介護者の性別	F5. 要介護者の年齢	F6. 要介護者とあなたの関係
女 ・ 男	歳	(例：配偶者,きょうだい,親等)
F7. 利用しているサービス		
1. デイサービス 2. デイケア 3. ショートステイ 4. ホームヘルパー 5. 訪問看護 6. 訪問リハビリ 7. 入所（長期） 8. 利用なし		
F8. 現在利用しているサービスの満足度についてうかがいます。あてはまる番号を○で囲んでください。		
1. 満足している 2. どちらかと言えば満足 3. どちらかと言えば不満 4. 不満である		
F9. 今年度はこの講座に何回参加されましたか？	計 _____ 回	

Q2. 利用している施設についてうかがいます。それぞれの質問についてあてはまる番号を○で囲んで下さい。

1) 利用されている施設の職員とコミュニケーションは充分にとれていると思いますか？

1. 充分取れている 2. 充分ではないがとれている 3. あまりとれていない 4. ほとんどとれていない

2) 利用している施設の職員で在宅介護のことで相談できる職員はいますか？

1. 大勢いる 2. 数人いる 3. ほとんどいない 4. まったくいない

3) 利用している施設の職員と在宅介護のことについて相談したいと思いますか？

1. 相談したい 2. どちらかといえば相談したい 3. どちらかといえば相談したくない
4. 相談したくない

4) どのようなことについて相談をしたいと思っていますか？簡単にご記入下さい。

--

5) 施設サービスを利用している他の家族と介護について話をしたいと思いますか？

1. 非常にそう思う 2. すこしそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

6) 施設のサービスを利用されている他の家族と話をしたりすることはありますか？

1. 時間をとって良く話をする 2. 顔を合わせれば話をする 3. あいさつ程度
4. あまり会う機会、話す機会がない 5. 話をする事がない

Q3. 各質問について今の気持ちに最もあてはまると思う番号を○で囲んで下さい。

	思わない	たまに思う	時々思う	よく思う	いつも思う
1 介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうと思うことがありますか	0	1	2	3	4
2 介護を受けている方のそばにいと腹が立つことがありますか	0	1	2	3	4
3 介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	0	1	2	3	4
4 介護を受けている方のそばにいと、気が休まらないと思いますか	0	1	2	3	4
5 介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことはありますか	0	1	2	3	4
6 介護を受けている方が家にいるので、友達を家に呼びたくても呼べないと思ったことがありますか	0	1	2	3	4
7 介護をだれかに任せたいと思うことがありますか	0	1	2	3	4
8 介護を受けている方に対して、どうしていいか判らないと思うことはありますか	0	1	2	3	4

Q4. 各質問について今の気持ちに最も近いと思う番号を○で囲んでください。

	全くそう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	非常にそう思う
1 介護を義務からではなく望んでいる	1	2	3	4
2 介護をするのが楽しいと感じる	1	2	3	4
3 介護をするのが自分の生きがいになっている	1	2	3	4
4 介護をすることによって満足感が得られる	1	2	3	4
5 介護をすることによって相手と親密になったように感じる	1	2	3	4
6 介護のおかげで人間的に成長したと思う	1	2	3	4
7 介護をすることで学ぶことがたくさんある	1	2	3	4
8 介護をすることは、自分の老後のためになると思う	1	2	3	4
9 介護のおかげで難しい状況に対処する力など自信がついた	1	2	3	4
10 介護を必要としている人が喜ぶのをみてうれしくなる	1	2	3	4
11 相手が介護に感謝したり、喜んでいと感じる	1	2	3	4
12 介護をしていて、逆に自分が元気づけられたり励まされたりする	1	2	3	4

後もう少しです。ご協力お願いします。→裏面にお進み下さい→

Q5. 現在の介護の状況の方法や考え方の記述があります。あなたの介護場面を思い出して最も現状に近いと思われる番号を○で囲んで下さい。

(その人は、あなたが介護をしている人のことを指しています)

	できない	どちらかといえ ばできない	どちらかといえ ばできる	できる
1 認知症などによる言動の原因を本人の状態や情報から理解する事ができる	1	2	3	4
2 その人の環境への適応を促進するための取り組みが出来る	1	2	3	4
3 その人の環境の変化の影響を予測することができる	1	2	3	4
4 その人の言動の意味を共感して読み取ることが出来る	1	2	3	4
5 これまでの生活をなるべく変えないように環境を調整できる	1	2	3	4
6 現在の認知症の状態や身体状況を把握することができる	1	2	3	4
7 突然の心理的な変化を察知して対応を選択する事ができる	1	2	3	4
8 その人の適当な役割を提供したり一緒に行ったりできる	1	2	3	4
9 認知症のことで困ったとき医学的、心理的情報を集めることができる	1	2	3	4
10 その人が出来る事を推測する事ができる	1	2	3	4
11 その人の過去の経験を整理し、出来る事を選択する事ができる	1	2	3	4
12 1日や1週間のサイクルを考え、生活の支援をする事ができる	1	2	3	4
13 その人の不安や不快を察知し介護方法を選択できる	1	2	3	4
14 その人の介護に必要な用具を判断し適切に準備することができる	1	2	3	4
15 訴えを受け入れる事ができる	1	2	3	4
16 その人の現状と感情が一致しないときを知っている	1	2	3	4
17 突然の訴えや要望も躊躇（ちゅうちょ）せずに対応する事ができる	1	2	3	4
18 様々な言動からお年寄りの過去の生活のペースや生活習慣を読み取ることができる	1	2	3	4
19 その人がもつ多くの問題の中から最も優先すべき問題を選択できる	1	2	3	4

お忙しいところご協力誠にありがとうございました。

ご不明の点は、下記までご連絡下さい。

責任者 認知症介護研究・研修仙台センター 研修研究員 矢吹知之

ケアケア交流講座

アンケートご協力のお願い（施設職員向け）

本アンケートは、ケアケア交流講座（社会福祉医療事業団助成事業）を、介護負担の軽減や施設サービスの質の向上に向けたものとするために、参加されたみなさんの声をお聞きすることを目的としたアンケートです。また、全国55カ所でも同じ内容のアンケートを実施します。

ご記入頂いた内容は、個人が特定できないよう数値化し、目的以外には一切使用致しませんのでご安心してご記入下さい。

Q1. あなたご自身のことについてうかがいます。

性 別	年 齢	高齢者施設総勤務年数	
女 ・ 男	歳	約	年 ヶ月
F1. 現在の職種（あてはまる番号1つを○で囲んで下さい。）			
1. (長期入所) ケアワーカー 2. デイサービス 3. ショートステイ 4. ケアマネージャー 5. PT・OT 6. ホームヘルパー 7. 看護師 8. その他（ ）			
F2. 職種	1. リーダー 2. ワーカー 3. 看護師 4. PT, OT 5. 管理者 6. ホームヘルパー 7. その他		
F4. 最終学歴	1. 福祉系専門学校 2. その他専門学校 3. 福祉系大学 4. その他大学 5. 大学院 6. その他	F3. 今回の参加形態	1. 講座の参加者 2. 講座の企画・運営者
F4. 今年度はこの講座に何回参加されましたか？		計 回	

● まず、お名前をご記入下さい。

お名前

(認知症介護研究・研修仙台センターが数値化して管理致します。管理責任者：矢吹知之)

Q2. 家族やスタッフ間のコミュニケーションについてうかがいます。あてはまる番号を○で囲んで下さい。

1) 施設のサービスを利用されているご家族と話をする機会はどの程度ありますか？

1. 充分にある 2. 充分ではないがある 3. 話す機会は少ない 4. 話す機会はほとんどない

→ ★★「1」「2」に○をつけた方にうかがいます。★★

どのような場面でどのような話が多いですか？枠内に簡単にご記入下さい。

場面

内容

2) 家族と介護に関する話をしたり、情報交換の必要性を感じることはありますか？

1. 必要性を感じる 2. 少し必要性を感じる 3. あまり必要性は感じない 4. 必要だと感じない

3) 同じ職場のスタッフと介護について話し合いをする機会は充分ですか？

1. 充分にある 2. 充分ではないがある 3. 話し合いの機会は少ない
4. 話し合いの機会はほとんどない

Q3. 職場のストレスについてうかがいます。ここ1ヶ月間を振り返ってその頻度から最もあてはまる番号を○で囲んで下さい。

1) 介護をする上で精神的な負担を感じることはありましたか？

1. よくあった 2. たまにあった 3. あまりなかった 4. なかった

2) 利用者との関係やコミュニケーションで精神的な負担を感じることはありましたか？

1. よくあった 2. たまにあった 3. あまりなかった 4. なかった

3) 上司との関係で精神的負担を感じることはありましたか？

1. よくあった 2. たまにあった 3. あまりなかった 4. なかった

4) 同僚との関係で精神的な負担を感じることはありましたか？

1. よくあった 2. たまにあった 3. あまりなかった 4. なかった

5) 勤務時間や休みについて精神的な負担を感じることはありましたか？

1. よくあった 2. たまにあった 3. あまりなかった 4. なかった

Q 4. 現在の介護の状況の方法や考え方の記述があります。あなたの日常の介護場面を想定して最も現状に近いと思われる数字を一つ選び○で囲んで下さい。
 (その人とは、あなたが介護をしている人のことを指します)

	できない	どちらかといえはできない	どちらかといえはできる	できる
1 認知症などによる言動の原因を本人の状態や情報から理解する事ができる	1	2	3	4
2 その人の環境への適応を促進するための取り組みが出来る	1	2	3	4
3 その人の環境の変化の影響を予測することができる	1	2	3	4
4 その人の言動の意味を共感して読み取ることが出来る	1	2	3	4
5 これまでの生活をなるべく変えないように環境を調整できる	1	2	3	4
6 現在の認知症の状態や身体状況を把握することができる	1	2	3	4
7 突然の心理的な変化を察知して対応を選択する事ができる	1	2	3	4
8 その人の適当な役割を提供したり一緒に行ったりできる	1	2	3	4
9 認知症のことで困ったとき医学的、心理的情報を集めることができる	1	2	3	4
10 その人が出来る事を推測する事ができる	1	2	3	4
11 その人の過去の経験を整理し、出来る事を選択する事ができる	1	2	3	4
12 1日や1週間のサイクルを考え、生活の支援をする事ができる	1	2	3	4
13 その人の不安や不快を察知し介護方法を選択できる	1	2	3	4
14 その人の介護に必要な用具を判断し適切に準備することができる	1	2	3	4
15 訴えを受け入れる事ができる	1	2	3	4
16 その人の現状と感情が一致しないときを知っている	1	2	3	4
17 突然の訴えや要望も躊躇（ちゅうちょ）せずに対応する事ができる	1	2	3	4
18 様々な言動からお年寄りの過去の生活のペースや生活習慣を読み取ることができる	1	2	3	4
19 その人がもつ多くの問題の中から最も優先すべき問題を選択できる	1	2	3	4

Q5. あなたは、最近、次のようなことをどの程度経験しましたか。あてはまると思う番号に○印をつけてください。

	いつもある 5	しばしばある 4	時々ある 3	まれにある 2	ない 1
					
1	こんな仕事もうやめたいと思うことがある				5－4－3－2－1
2	我を忘れるほど仕事に熱中することがある				5－4－3－2－1
3	こまごまと気配りすることが面倒に感じることもある				5－4－3－2－1
4	この仕事は私の性分に合っていると思うことがある				5－4－3－2－1
5	同僚や利用者の顔を見るのも嫌になることがある				5－4－3－2－1
6	自分の仕事がつまらなく思えて仕方のないことがある				5－4－3－2－1
7	一日の仕事が終わると「やっと終わった」と感じることもある				5－4－3－2－1
8	出勤前、職場に出るのが嫌になって、家にいたいと思うことがある				5－4－3－2－1
9	仕事を終えて今日は気持ちの良い日だと思うことがある				5－4－3－2－1
10	同僚や利用者、何も話したくなくなることもある				5－4－3－2－1
11	仕事の結果はどうでもよいと思うことがある				5－4－3－2－1
12	仕事のために心にゆとりがなくなったと感じることもある				5－4－3－2－1
13	今の仕事に心から喜びを感じることもある				5－4－3－2－1
14	今の仕事は、私にとってあまり意味がないことだと思うことがある				5－4－3－2－1
15	仕事が楽しくて、知らないうちに時間が過ぎることがある				5－4－3－2－1
16	体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある				5－4－3－2－1
17	我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある				5－4－3－2－1

お忙しいところご協力誠にありがとうございました。
ご不明な点は、下記までご連絡下さい。

責任者
認知症介護研究・研修仙台センター 研修研究員 矢吹知之

平成18年度 独立行政法人福祉医療機構
長寿社会福祉基金（一般分）報告書

介護家族への教育支援プログラムの開発事業

2007年 3月 発行

発行所 認知症介護研究・研修仙台センター
〒989-3201
仙台市青葉区国見ヶ丘6-149-1
TEL (022) 303-7550
FAX (022) 303-7550

制 作 株式会社 ホクトコーポレーション
仙台市青葉区上愛子堀切1-13
TEL (022) 391-5661
